

SymantecTM System Recovery 2011

Desktop Edition

クイックスタートガイド



改版履歷

商標について

Symantec、LiveUpdateは、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows 7は米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Windows 7 は、Windows 7 Starter operating system、Windows 7 Home Premium operating system、Windows 7 Professional operating system、Windows 7 Enterprise operating system および Windows 7 Ultimate operating system の略称です。Windows Server 2008 R2 は、Windows Server 2008 R2, Standard, Windows Server 2008 R2, Enterprise、およびWindows Server 2008 R2, Datacenter の略称です。Windows Server 2008 は、Windows Server 2008 Standard operating system および Windows Server 2008 Enterprise operating system の略称です。Windows Vista はMicrosoft Windows Vista Ultimate operating system, Microsoft Windows Vista Enterprise operating system, Microsoft Windows Vista Business operating system, Microsoft Windows Vista Premium operating system, Microsoft Windows Vista Home Basic operating system の略称です。Windows 2003 R2 はMicrosoft Windows Server 2003 R2, Standard Edition, Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition およびMicrosoft Windows Server 2003 R2, Datacenter Edition の略称です。Windows 2003 はMicrosoft Windows Server 2003, Standard Edition, Microsoft Windows Server2003, Enterprise Edition およびMicrosoft Windows Server2003, Datacenter Edition の略称です。Windows XP はMicrosoft Windows XP Home Edition および Microsoft Windows XP Professional の略称です。Windows 2000 はMicrosoft Windows 2000 Server operating system、Microsoft Windows 2000 Advanced Server operating system、およびMicrosoft Windows 2000 Professional operating system の略称です。

本書のサンプル画像などで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NEC の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書の内容及び本書を使用した結果について明示的にも黙示的にも一切の保証を行いません。

© NEC Corporation 2011

はじめに

本書は、**Symantec System Recovery 2011 Server Edition** を利用されるにあたり、事前に製品概要やインストール、利用方法についての概要を理解して頂くことを目的に記述されております。

詳細な機能や設定方法などにつきましては、ユーザーズガイドをご確認ください。ユーザーズガイドは、**Symantec System Recovery 2011 Desktop Edition** インストール CD-ROM の直下の **docs** フォルダ に格納されています。(ファイル名： **UserGuide_ja.pdf**)

なお、**Symantec System Recovery 2011 Server Edition** インストール CD-ROM に格納されているユーザーズガイドやリリースメモに更新があった場合は、以下のサイトにて公開されます。

また、**Symantec System Recovery 2011 Server Edition** の一般的な情報に関する公開されていきますので、必要に応じてご参照ください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH75692>

目次

1	動作概要	1
1.1	主な製品コンポーネント	2
2	システム要件	3
3	リカバリディスクの検証	4
3.1	検証の準備	4
3.2	検証の実行	5
3.3	より確実なリストアのために	16
4	本書での取り扱い範囲	17
4.1	バックアップシナリオ	17
4.2	バックアップ環境	18
5	Symantec System Recovery のインストール	19
5.1	インストールのための準備	19
5.2	インストールの実行	19
6	バックアップ	27
6.1	コンピュータのスケジュールバックアップ	27
6.2	バックアップに関するアドバイス	37
7	リストア	38
7.1	システム全損時のコンピュータの復元	38
7.2	ファイルの復旧	52
8	注意制限事項	60
9	FAQ	61
10	障害時の問い合わせ方法	62
10.1	SeaST ログ採取方法	64
10.2	リカバリディスク起動時の SeaST ログ採取方法	68

1 動作概要

Symantec System Recovery 2011 は、Backup Exec System Recovery 2010 の後継となるバージョンです。データもシステムも丸ごとバックアップし、障害時に簡単・高速にリストアすることにより、容易な障害復旧を実現します。これにより、ダウンタイムを抑え、業務継続を支援します。

バックアップは、スナップショットを利用するため、バックアップ処理中にも、コンピュータの機能を継続して実行することができます。バックアップは、お客様の運用に合わせてボリューム単位もしくはファイル・フォルダ単位を選択することができます。また、リカバリディスクを使用してのコールドバックアップにより、起動しなくなったシステムのデータを取り出す事もできます。

リストアは、ボリューム単位もしくはファイル単位で実行することができます。また、システムボリュームが障害により動作しなくなった場合にも、リカバリディスクを使用することで、短時間にシステムを復旧することができます。アプリケーションや各種設定もバックアップするため、OS やアプリケーションの再インストール、設定を行う必要はありません。

1.1 主な製品コンポーネント

Symantec System Recovery には、プログラム本体とリカバリディスクの 2 つのコンポーネントが含まれます。

主なコンポーネント	説明
Symantec System Recovery プログラム (ユーザーインターフェース)	Symantec System Recovery プログラムでは、コンピュータのバックアップを定義、スケジュール、実行できます。バックアップを実行すると、コンピュータのリカバリポイントが作成されます。このリカバリポイントを使用して、コンピュータ全体または個別のドライブ、ファイル、フォルダを修復できます。また、リカバリポイントの保存場所（バックアップ先）を管理したり、コンピュータのバックアップの状態を監視して、データが定期的にバックアップされていることを確認できます。
Symantec System Recovery Disk (リカバリディスク)	リカバリディスク を使用すると、修復環境でコンピュータを起動できます。コンピュータのオペレーティングシステムが正常に起動しない場合、リカバリディスク を使用してシステムドライブ（オペレーティングシステムがインストールされているドライブ）を修復します。また、コールドバックアップにより、起動しなくなったシステムのデータを取り出す事もできます。 なお、リカバリディスク には、コンピュータに対応したネットワークとストレージデバイスのドライバが含まれている必要があります。事前に本書第 3 章「 リカバリディスクの検証 」を参照して、リカバリディスクから自身のディスク及び、リカバリポイント保存先にアクセス可能であるかを検証してください。もし、アクセスできなかった場合は、ユーザーズガイド 第 3 章の「カスタム Symantec System Recovery Disk の作成」を参照して、お客様にてカスタムリカバリディスクを作成してください。

2 システム要件

◆ Symantec System Recovery 2011 Desktop Edition のシステム要件

項目	内容
OS	<p>x86-32bit 版または x86-64bit 版</p> <p>最新情報は、</p> <p>Software Compatibility List (http://www.symantec.com/docs/TECH157280)</p> <p>を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• Windows 7 Home Premium/Professional/Starter/Ultimate/Enterprise (SP1)• Windows Vista Home Basic/Home Premium/Ultimate/Enterprise/Business (SP2)• Windows XP Professional/Home/Media Center (SP3)
メモリ	<p>各コンポーネントを実行するためには以下のサイズのメモリが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">• Symantec System Recovery Agent : 512MB• Symantec System Recovery ユーザーインターフェースと Recovery Point Browser : 512MB <p>リカバリディスク使用時には、1GB 以上（ビデオカードなどが使用するメモリサイズを除く）のサイズのメモリが必要です。</p>
ディスク	<p>インストールするコンポーネントごとに以下の空き容量が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">• Symantec System Recovery : 430 MB• Microsoft .NET Framework 2.0 : 280MB (x86-32bit)、610MB (x86-64bit)

3 リカバリディスクの検証

システムを復旧する場合は、リカバリディスクを使用して Symantec System Recovery を起動します。

リカバリディスクの中には、ディスクやネットワークを認識するためのいくつかのデバイスドライバが、あらかじめ格納されていますが、お客様の装置のストレージやネットワークに対応したドライバが格納されていない場合もあり、その場合には、お客様にてリカバリディスクのカスタマイズを行う必要があります。運用に先立って、リカバリディスクの検証を必ず実施してください。

3.1 検証の準備

以下を準備してください。

- リカバリディスク

リカバリポイントの格納先をネットワーク上の共有フォルダにする場合は、以下も準備してください。

- リカバリポイントを保存するための共有フォルダ
- リカバリポイントの保存先にアクセスするための、LAN ケーブルの接続。(複数のネットワークアダプタが存在する場合も 1 本だけ接続してください。)

3.2 検証の実行

以下の手順に従って、リカバリディスクの検証を行ってください。もし、検証でディスクやネットワークが認識できなかった場合は、ユーザーズガイド 第3章の「カスタム Symantec System Recovery Disk の作成」を参照して、カスタムリカバリディスクを作成してください。作成したカスタムリカバリディスクも、以下の手順に従って検証を行い、ディスクやネットワークが認識できるようになったことを確認してください。

◆ 検証方法

1. リカバリディスク を光ディスクドライブにセットし、CD よりシステムを起動します。
2. 【エンドユーザー使用許諾契約】画面が表示されますので、使用許諾契約の条項を一読し、同意する場合は [同意する] ボタンをクリックします。
3. ネットワークサービス起動確認画面が表示されますので、[はい] ボタンをクリックします。一定時間何も選択しなければ [はい] ボタンを選択したとみなし、自動的に次へ進みます。

※ ネットワークアダプタの検証

このとき、ネットワーク自体に障害がないにも関わらず「ネットワークアダプタを取得できません」のメッセージが表示される場合は、ご利用の装置のネットワークデバイスすべてについて、リカバリディスクにネットワークドライバが含まれていないことをあらわしています。この状態ではネットワーク上のリカバリポイントからの修復を行うことができませんので、必ずカスタムリカバリディスクを作成してください。メッセージ確認後、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

カスタムリカバリディスクの検証時は、項目3.でネットワークサービス起動確認画面は表示されません。カスタムリカバリディスクの作成時に、[オプション] 画面の [ネットワークサービスを自動的に開始] をチェックせずに作成した場合は、項目11.、項目14.、項目16.のいずれかの操作後に表示されます。ネットワークサービス起動確認画表示後は、[はい] ボタンをクリックしてください。

4. まずは、ストレージデバイスのドライバを確認するため、[ホーム] → [コンピュータを修復] をクリックします。



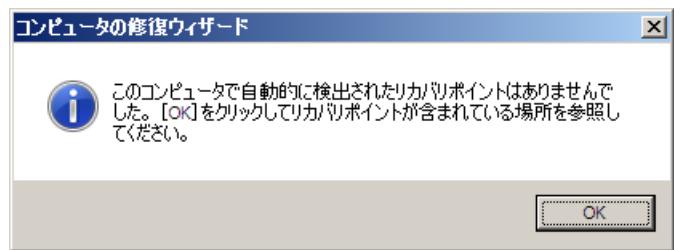
+++ 注意 +++

ここで、コンピュータのバックアップをクリックするとウィザードがフリーズする場合があります。間違ってクリックした場合は、フリーズしたウィザードは無視してウィザードの下に表示されているメニュー画面に戻り、[コンピュータの修復] をクリックして作業を続けてください。

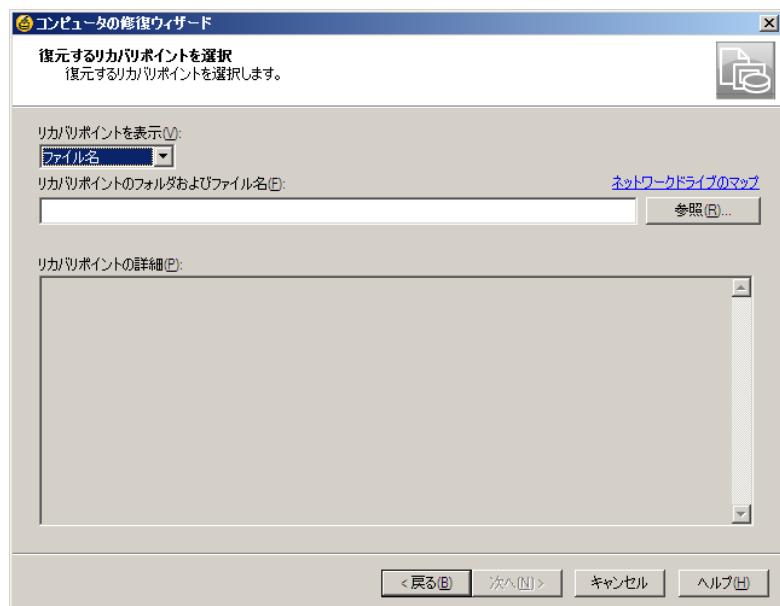
5. 以下の画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



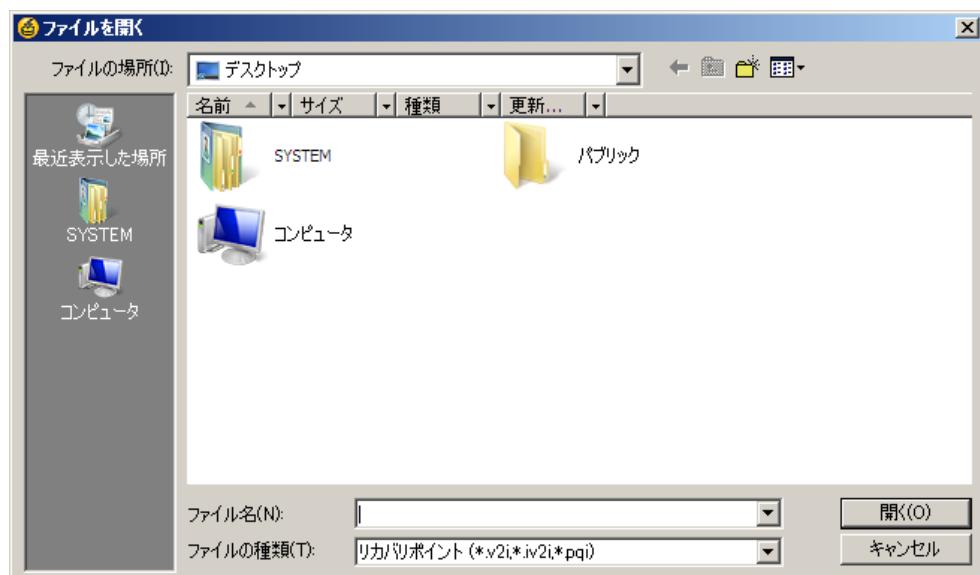
6. 以下の画面が表示された場合は、[OK] ボタンをクリックします。



7. 以下の画面が表示されますので、[リカバリポイントを表示] 項目のプルダウンメニューで [ファイル名] を選択し、[参照] ボタンをクリックします。



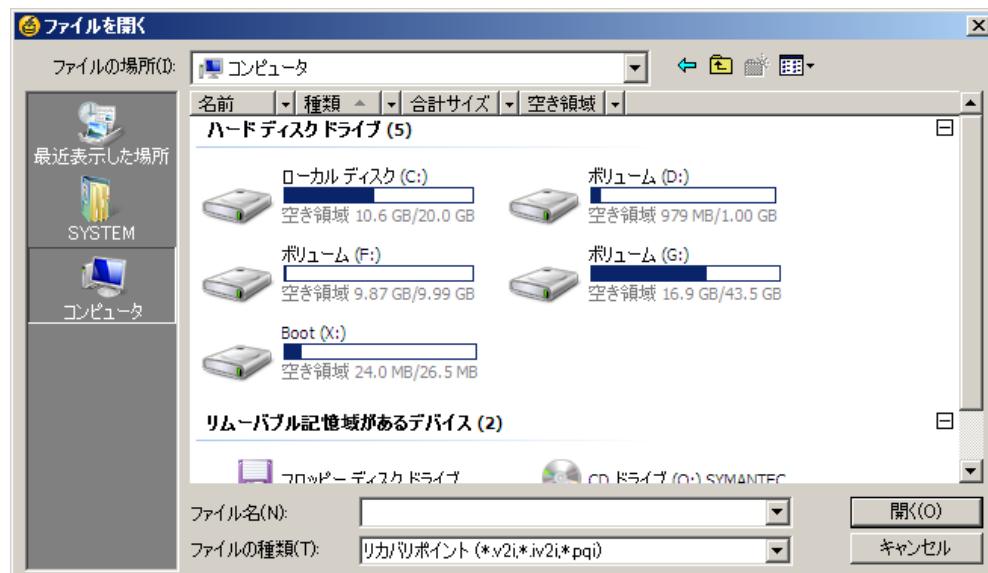
8. [コンピュータ] をダブルクリックします。



9. 以下の画面で選択できるドライブにバックアップ・リストアの対象となる全てのローカルディスクやDVD、リムーバブルディスクが表示されていることを確認してください。

※ ストレージデバイス（RAID ボードドライバ）の検証

例えば、Boot(X:)のみが表示されている場合には、リカバリディスクにストレージデバイスのドライバが含まれておらず、このままでは修復を行うことができませんので、必ずカスタムリカバリディスクを作成してください。

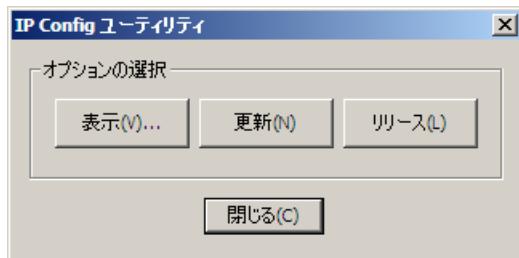


10. [キャンセル] ボタンをクリックして、項番 9.と項番 7.の画面を終了してください。リカバリポイントをローカルドライブに保存する場合は、ここで確認終了となりますので項番 21.に進みます。項番 3.で「ネットワークアダプタを取得できません」のメッセージが表示されている場合も、すでにネットワークデバイスのドライバがリカバリディスクに含まれていないことがわかっていますので確認は終了となります。項番 21.に進んでください。
ネットワーク上の共有フォルダにリカバリポイントを保存する場合は、続けてネットワークドライバの確認を行います。

11. [ネットワーク] → [IPConfig ユーティリティを実行] をクリックします。



12. [IP Config ユーティリティ] 画面が表示されますので、[表示] ボタンをクリックします。



13. ここで、表示されたネットワークアダプタの状態がすべて「メディアは接続されていません」と表示されている場合は、お客様がケーブルを接続したネットワークアダプタは認識されていないことになりますので、ケーブルの接続を変更して認識されているネットワークアダプタをリストアに使用するか、認識されていないネットワークアダプタに対応したドライバを追加したカスタムリカバリディスクを作成してください。カスタムリカバリディスクを作成する場合、検証は終了となりますので、項番 21.へ進みます。

DHCP 環境でない場合はケーブルが接続されているネットワークアダプタの名前（説明）を控えます。この画面の例では、ケーブルが接続されたネットワークアダプタの名前は「**Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network Connection**」となります。DHCP 環境の場合は、適切な IP アドレスが割り当てられている事を確認した後は、項番 16.へ進みます。

```
C:\>windows>System32>cmd.exe
メディアの状態...: メディアは接続されていません
接続固有の DNS サフィックス...: 
説明...: Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
Connection #2
物理アドレス...: 00-24-21-33-79-65
DHCP 有効...: (はい)
自動構成有効...: (はい)

イーサネット アダプタ ローカル エリア接続:
接続固有の DNS サフィックス...: 
説明...: Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
Connection
物理アドレス...: 00-24-21-33-79-64
DHCP 有効...: いいえ
自動構成有効...: (はい)
リンクローカル IPv6 アドレス...: fe80::6de6:2bce:49af:aa4c%2(優先)
IPv4 アドレス...: 169.254.89.220(優先)
サブネット マスク...: 255.255.0.0
デフォルト ゲートウェイ...: fec0:0:0:ffff::1%1
DNS サーバー...: fec0:0:0:ffff::2%1
fec0:0:0:ffff::3%1
NetBIOS over TCP/IP...: 有効
続行するには何かキーを押してください...:
```

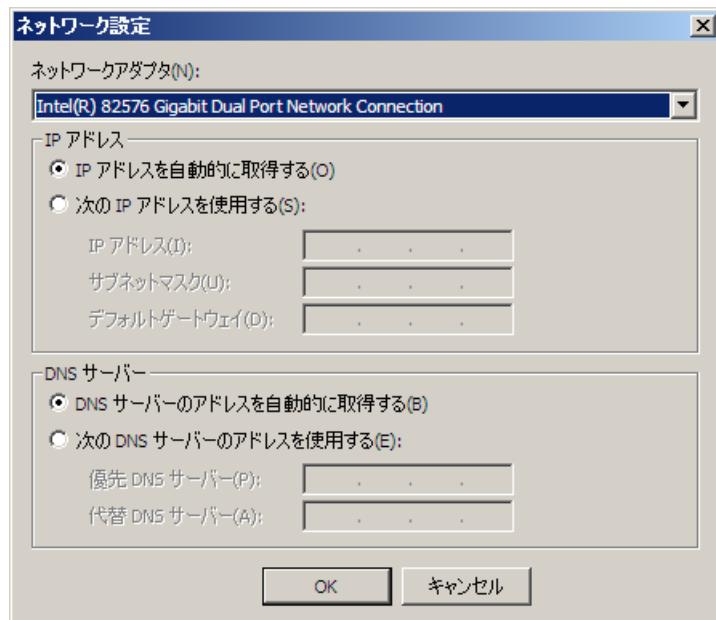
+++ 補足 +++

本画面での確認後は、何かのキーを押して画面を終了してください。その後、[IP Config ユーティリティ] 画面は [閉じる] ボタンをクリックして終了してください。

14. [ネットワーク] → [ネットワーク接続を設定] をクリックします。



15. 項番 13.で控えたネットワークアダプタを選択し、[次の IP アドレスを使用する] のラジオボタンをチェック後、適切な値を入力します。入力終了後は、[OK] ボタンをクリックします。



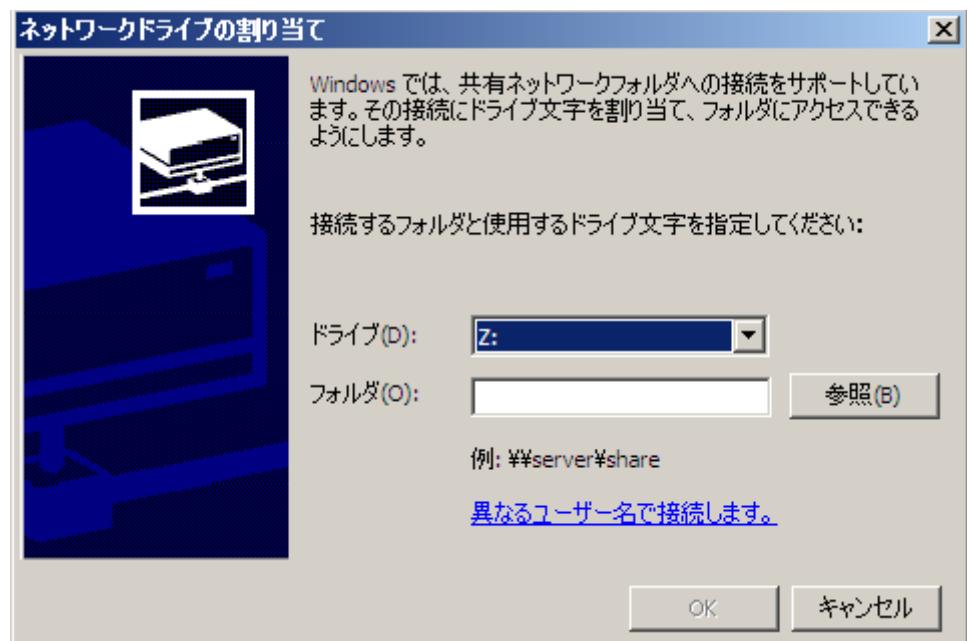
+++ 注意 +++

「静的 IP」の設定を行う場合は、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ]はいずれも空白にせず、適切なアドレスを設定してください。ゲートウェイを設けていない環境においては、[デフォルトゲートウェイ]をネットワーク上に存在しない一意となるアドレスを設定してください。DNS サーバーを設けていない環境においては、DNS サーバーの設定はデフォルトのままで構いません。

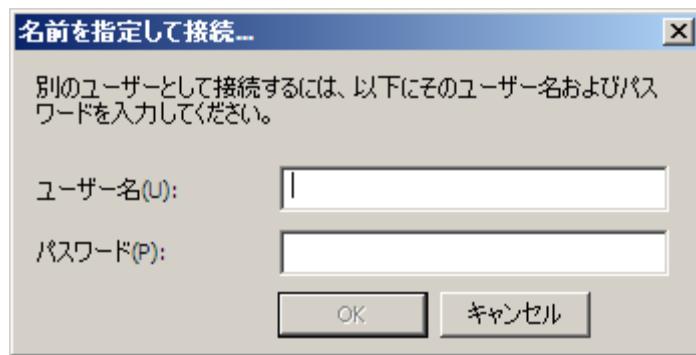
- [ホーム] → [ネットワーク ドライブの割り当て] をクリックします。



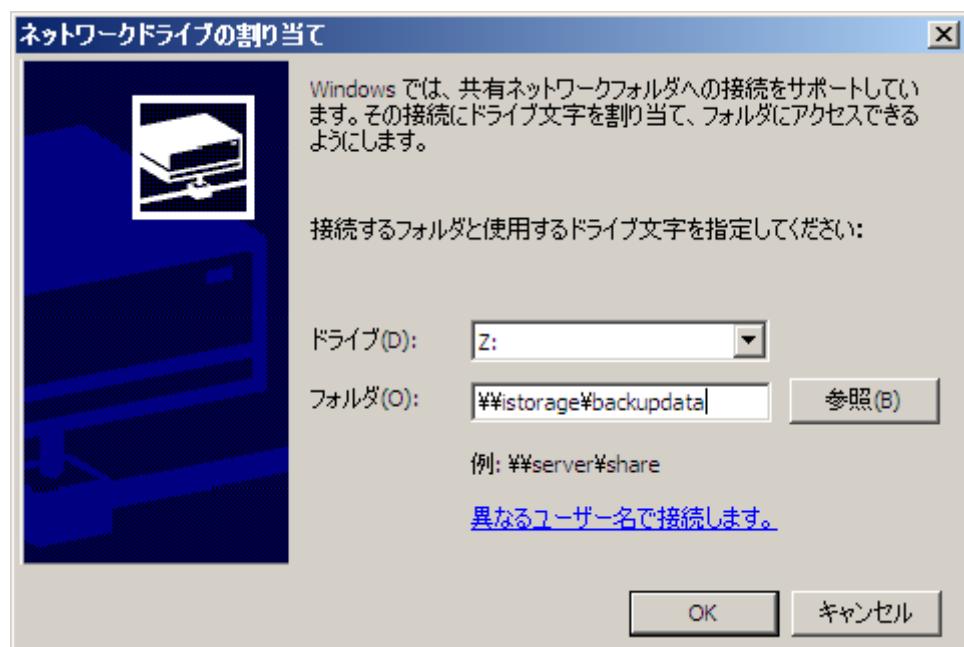
17. 以下の画面が表示されますので、使用するドライブ名を選択し、[フォルダ] のテキストボックスに入力します。入力終了後、[異なるユーザー名で接続します] をクリックします。



18. 接続に必要なユーザー名とパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



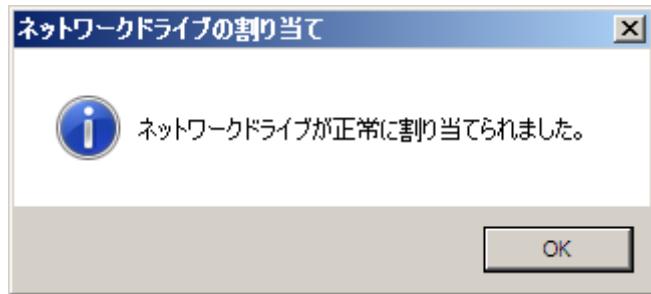
19. [OK] ボタンをクリックします。



+++ 注意 +++

共有フォルダ名を指定しても、[OK] ボタンが無効の場合は、共有フォルダ名の後にスペースを入力すると、[OK] ボタンが有効になります。有効になった後、入力したスペースを削除してください。

20. 接続が終了し、「ネットワークドライブが正常に割り当てられました。」というメッセージが表示されることを確認してください。ネットワーク自体に障害がないにも関わらず「ネットワークバスが見つかりません。」などのメッセージが表示され正常に終了しない場合は、最新のドライバ入手してカスタムリカバリディスクを作成してください。[OK] ボタンをクリックしてください。



21. メニュー右下の [終了] をクリックします。



22. 以下の画面が表示されますので、[はい] ボタンをクリックします。[はい] ボタンをクリック後は、リカバリディスクを取り出してください。



3.3 より確実なリストアのために

検証で問題がない場合でも、ドライバの不具合などにより実際にリストアを行うとエラーが発生する場合もございますので、リストアが完了するまでの確認を実施されることを推奨します。もし、リストア中にエラーが発生した場合は、デバイスドライバのベンダーより Windows Server 2008 x86 対応の最新ドライバを入手してリカバリディスクをカスタマイズしたのち、改めてリストア確認を実施してください。なお、リカバリディスクのカスタマイズ方法につきましては、ユーザーズガイド 第3章の「カスタム Symantec System Recovery Disk の作成」を参照してください。

+++ 補足 +++

検証する装置上の OS が Windows Server 2008 でない場合でも、リカバリディスクからシステムを起動すると、ディスク中に格納された Windows Server 2008(32ビット)ベースの Windows PE が起動しますので、ベンダーより入手するドライバは Windows Server 2008 x86 対応のものとなります。

4 本書での取り扱い範囲

本書では、以下の環境で Symantec System Recovery 2011 によってバックアップ・リストアを行う手順を説明いたします。

本書に記載している以外の環境での設定方法、基本機能以外の動作についてはインストール CD 中に含まれるユーザーズガイドに記載されておりますので、ご参照ください。ユーザーズガイドは Symantec System Recovery 2011 Desktop Edition インストール CD-ROM の直下の docs フォルダに格納されています。(ファイル名 : UserGuide_ja.pdf)

4.1 バックアップシナリオ

本書で説明するバックアップシナリオは、以下の通りとなります。

- ・ バックアップ対象は PC のシステムボリュームとデータボリュームとする。
- ・ バックアップの単位はボリューム単位とする。
- ・ 保存先はストレージサーバー上の共有フォルダとする。共有フォルダの配下に各コンピュータ名と同名のフォルダを作成して、そこにリカバリポイントを作成することとする。
- ・ 月曜から金曜日の 12 時からバックアップを行うこととする。週の初回のバックアップはフルバックアップ、それ以外は増分バックアップを行う。バックアップデータは 3 世代保存とする。
- ・ 結果の確認は各 PC にて行うこととする。
- ・ システム全損時は、リカバリディスクよりシステムドライブをリストアすることとする。
- ・ ファイルの復旧時には、GUI からのファイル単位・フォルダ単位のリストアにて行うこととする。

4.2 バックアップ環境

本書で説明する環境は、以下の通りとなります。

バックアップ対象の PC

コンピュータ名 : XP-CL2

OS : Windows XP SP3

リカバリポイント保存先のストレージサーバー

コンピュータ名 : iStorage

共有フォルダへのパス : ¥¥iStorage¥backupdata

接続に使用するユーザー名 : administrator

接続に使用するパスワード : passstorage

5 Symantec System Recovery のインストール

5.1 インストールのための準備

Symantec System Recovery のインストールを行う前に、以下を準備してください。

- Symantec System Recovery インストール CD

5.2 インストールの実行

以下の手順に従って、Symantec System Recovery のインストールを行ってください。

◆ インストール方法

1. Symantec System Recovery インストール CD を光ディスク ドライブにセットします。以下の画面が自動起動しますので、日本語を選択して [OK] ボタンをクリックします。



+++ 補足 +++

OS によっては、上記の画面が表示される前に「Browser.exe の実行」または「フォルダを開いてファイルを表示」のいずれかを選択する画面が表示される場合がありますので、「Browser.exe の実行」を選択してください。その後、[ユーザー アカウント制御] 画面が表示された場合は [続行] ボタンまたは [はい] ボタンをクリックしてください。

2. 以下の画面が表示されますので [今すぐインストール] をクリックします。



3. 使用許諾契約の条項を一読し、同意する場合は、[使用許諾契約の条項に同意します] にチェックを入れ、[今すぐインストール] ボタンをクリックします。

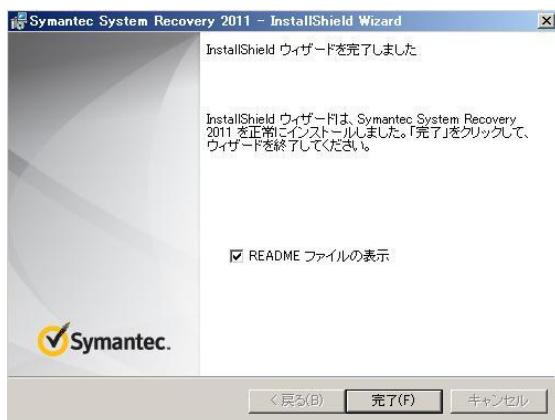


+++ プラスワン +++

[カスタムインストール] では別フォルダへのインストール、もしくは特定の機能のみのインストールを行うことができます。[カスタムインストール] を行う場合は、ユーザーズガイド 第 2 章 の「**Symantec System Recovery** のインストール」を参照してください。

システム構成によっては、リカバリディスクにドライバファイルが含まれていないことを通知するメッセージが表示される場合があります。また、このメッセージが表示されない場合でも、リカバリディスクにドライバファイルが含まれていない場合があります。Symantec System Recovery インストール後は、必ずリカバリディスクからの復旧が可能であるかを検証してください。検証方法については、本書第 3 章 「[リカバリディスクの検証](#)」を参照してください。

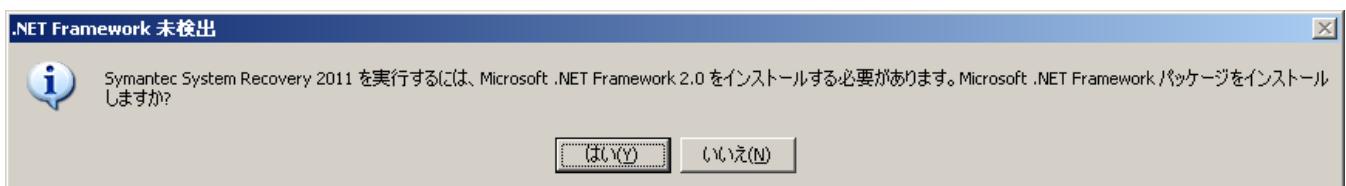
4. 以下の画面が表示されますので、【完了】ボタンをクリックします。



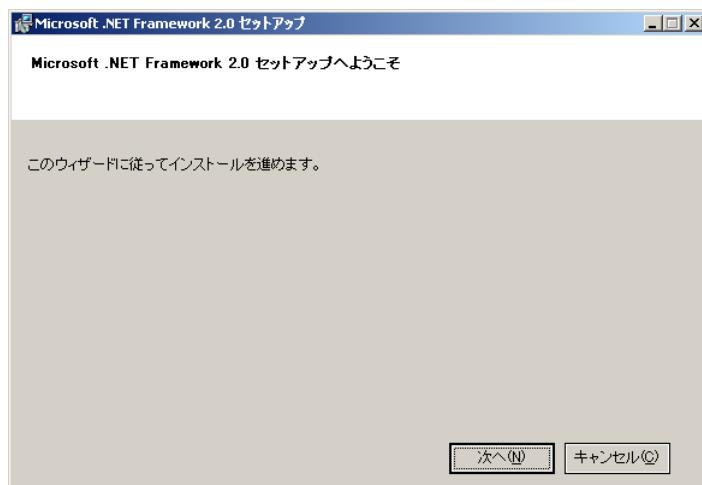
5. 以下の画面が表示されますので、【はい】ボタンをクリックしシステムの再起動を行います。【はい】ボタンクリック後は、CDを取り出してください。



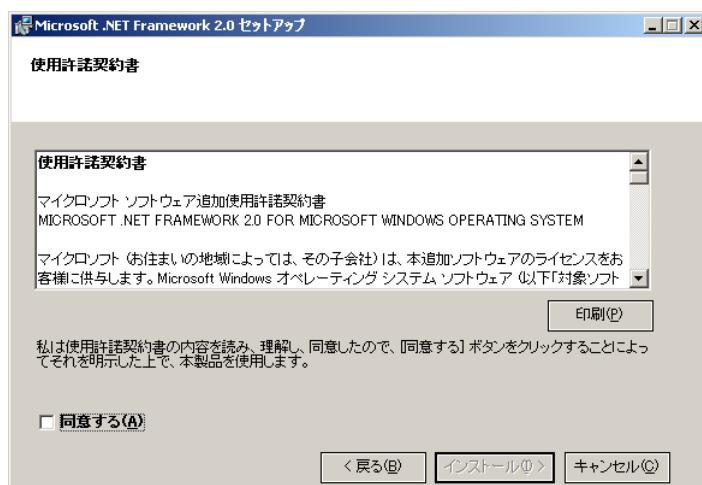
6. コンピュータ上に Microsoft .NET Framework 2.0 が存在しないか、以前のバージョンがインストールされている場合は、再起動後に以下の画面が表示されることがあります。この場合は Microsoft .NET Framework 2.0 のインストールを行う必要がありますので、【はい】ボタンをクリックします。すでに Microsoft .NET Framework 2.0 がインストール済みの場合、項目番号 11.へ進みます。



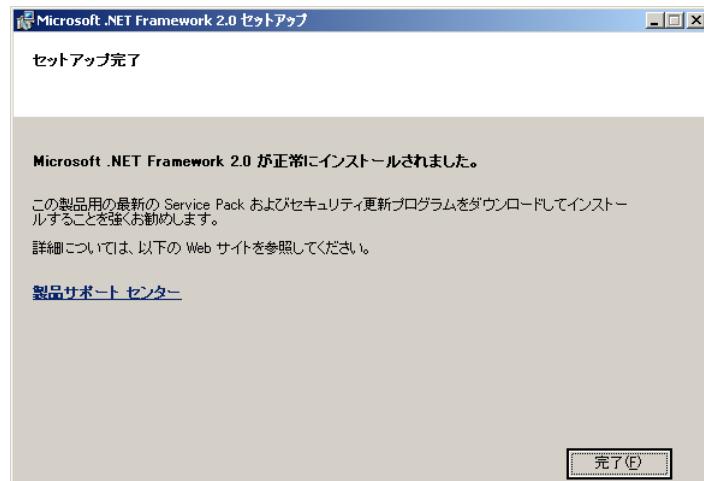
7. [次へ] ボタンをクリックします。



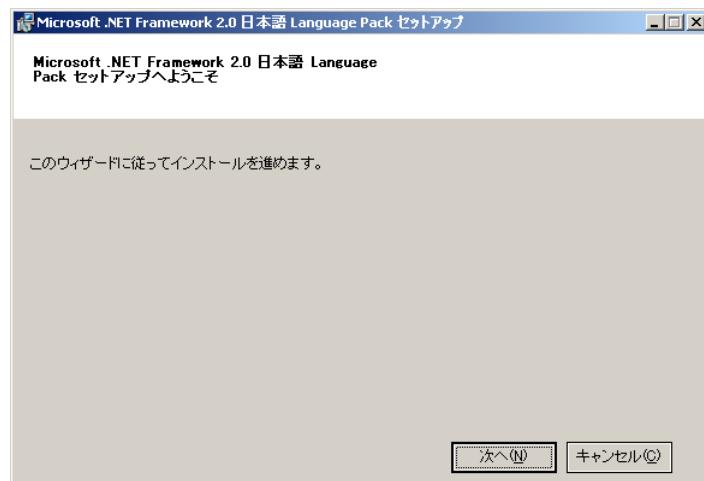
8. 使用許諾契約書の条項を一読し、同意する場合は [同意する] にチェックを入れ、[インストール] ボタンをクリックします。



9. Microsoft .Net Framework 2.0 のセットアップが完了すると、以下の画面が表示されますので、[完了] ボタンをクリックします。



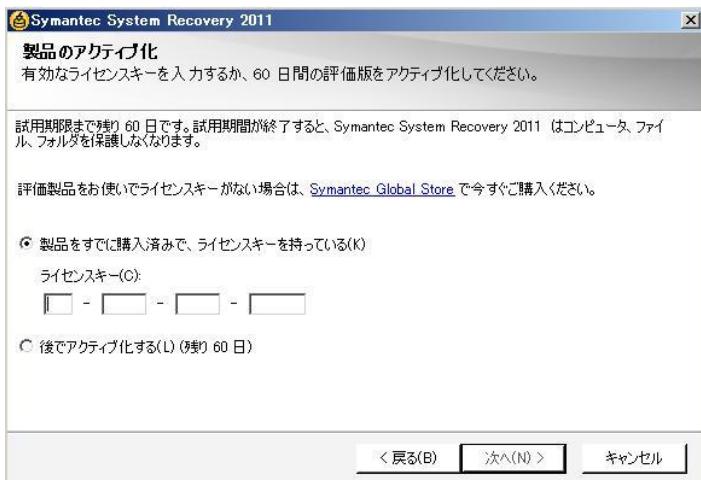
10. 続いて [Microsoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Pack セットアップ] が起動しますので、インストールを行います。インストール手順は Microsoft .Net Framework 2.0 と同じとなりますので、同様の手順でインストールを行ってください。



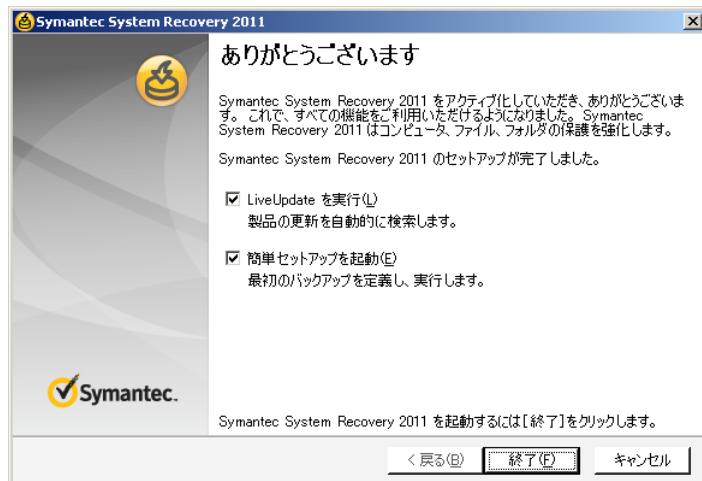
11. 以下の画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



12. 以下の画面が表示されますので、ライセンスキーを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。[後でアクティベーションする（残り 60 日）] を選択しても Symantec System Recovery を使用することはできます。ただし、初回起動から 60 日を経過すると使用できなくなります。その場合には、ライセンスキーを入力してください。



13. ライセンス認証が完了した画面が表示されますので、[LiveUpdate を実行] と [簡単セットアップを起動] のチェックをはずして [終了] ボタンをクリックします。



+++ 注意 +++

NEC では LiveUpdate の使用は未サポートとなります。

上記画面では、[LiveUpdate を実行] のチェックを必ず外してください。

以上でインストールが完了となり、Symantec System Recovery 2011 の画面が表示されます。

6 バックアップ[◦]

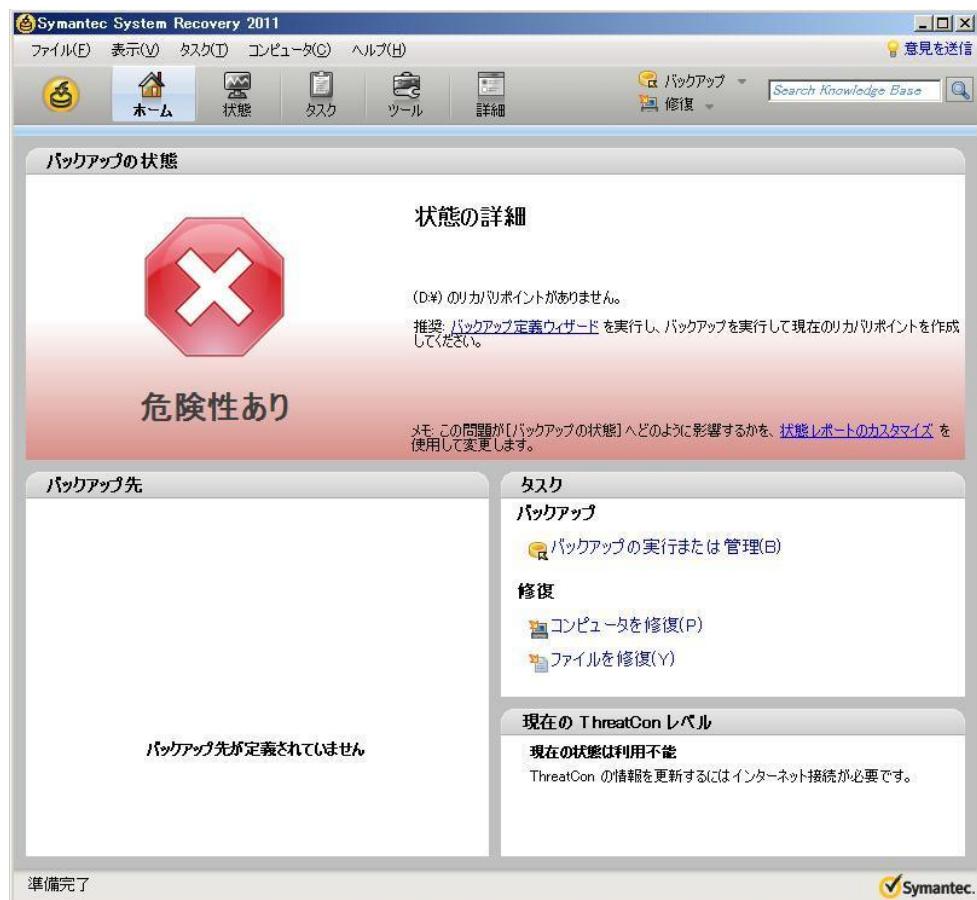
6.1 コンピュータのスケジュールバックアップ[◦]

バックアップ定義ウィザードで、コンピュータのドライブ単位のバックアップをスケジューリングし、バックアップを自動実行することができます。ドライブ単位のバックアップでは、ドライブ全体のバックアップを、リカバリポイントとして作成します。リカバリポイントには、ファイル、フォルダ、デスクトップ設定、プログラム、およびオペレーティングシステムなどのすべての情報が含まれます。また、リストア時はコンピュータ全体だけでなく、ファイルやフォルダ単位でも復元することができます。

ここでは、本書第 4.1 章「[バックアップシナリオ](#)」に沿ったバックアップ設定を行います。

◆ バックアップのスケジュール設定方法

1. [スタート] → [すべてのプログラム] → [Symantec System Recovery] → [Symantec System Recovery 2011] を起動し、[ホーム] ページの [バックアップの実行または管理] をクリックします。



+++ 補足 +++

[バックアップの実行または管理] をクリックした際に簡易セットアップ
が起動した場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして、画面を閉じてく
ださい。

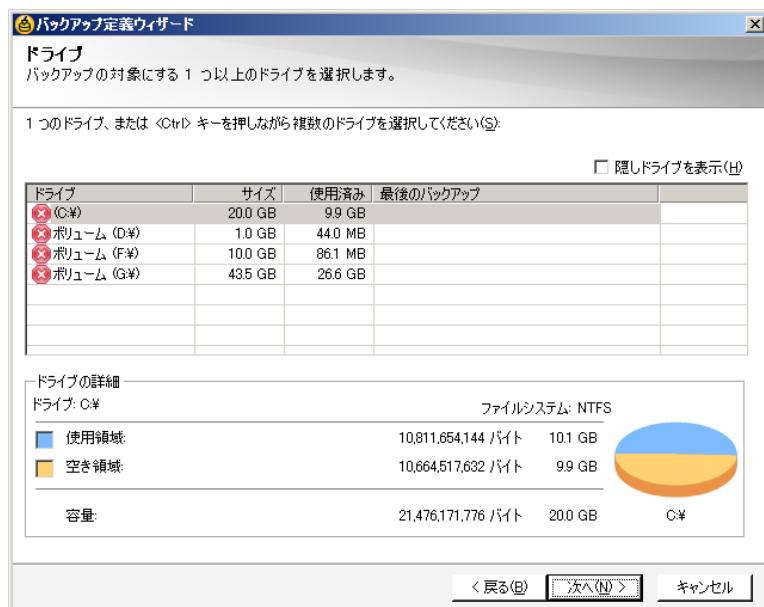
2. 以下の画面にて【新しく定義】ボタンをクリックします。



3. 【コンピュータのバックアップ】をチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。

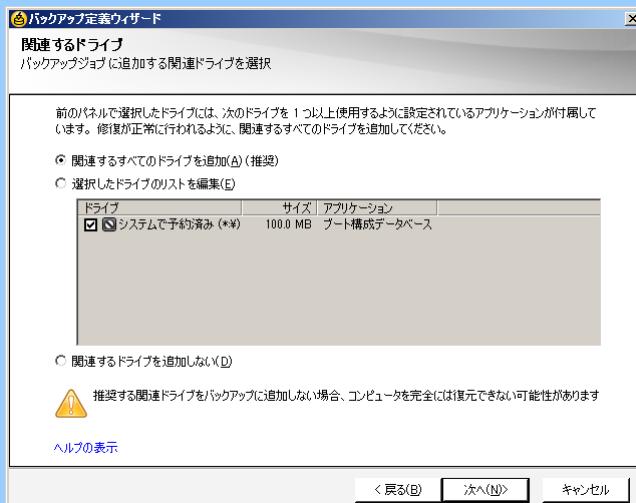


4. Shift キーを押しながらすべてのドライブを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



+++ 注意 +++

ご利用の OS が、Windows 7 の場合、以下の画面が表示されますので、[関連するすべてのドライブを追加（推奨）] がチェックされていることを確認して、[次へ] ボタンをクリックします。



5. 【リカバリポイントセット】を選択し、【次へ】ボタンをクリックします。



+++ プラスワン +++

それぞれのリカバリポイントの特徴は以下の通りとなります。

リカバリポイントセット

最初に完全リカバリポイントを作成した後、次回から増分リカバリポイントを作成します。

増分リカバリポイントは変更点のみをバックアップするため、完全リカバリポイントの作成に比べて短時間でバックアップが完了します。

単体リカバリポイント

毎回、選択したドライブの完全リカバリポイントを作成します。

増分のスケジューリングは行うことができません。

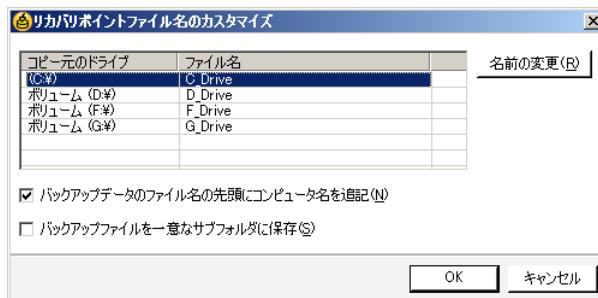
6. 作成するリカバリポイントの保存場所として「¥¥Storage¥backupdata」と入力して、[リカバリポイントファイル名をカスタマイズ] をクリックします。



+++ プラスワン +++

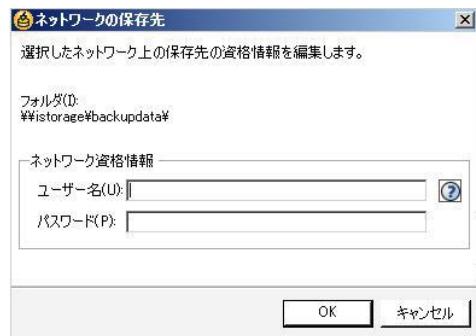
必要に応じてリカバリポイントファイル名のカスタマイズ、オフサイトコピーの追加を行うことができます。オフサイトコピーについての詳細は、ユーザーズガイド 第 6 章 の「オフサイトコピーについて」を参照してください。

7. [バックアップファイルを一意なサブフォルダに保存] にチェックをいれて、[OK] ボタンをクリックします。

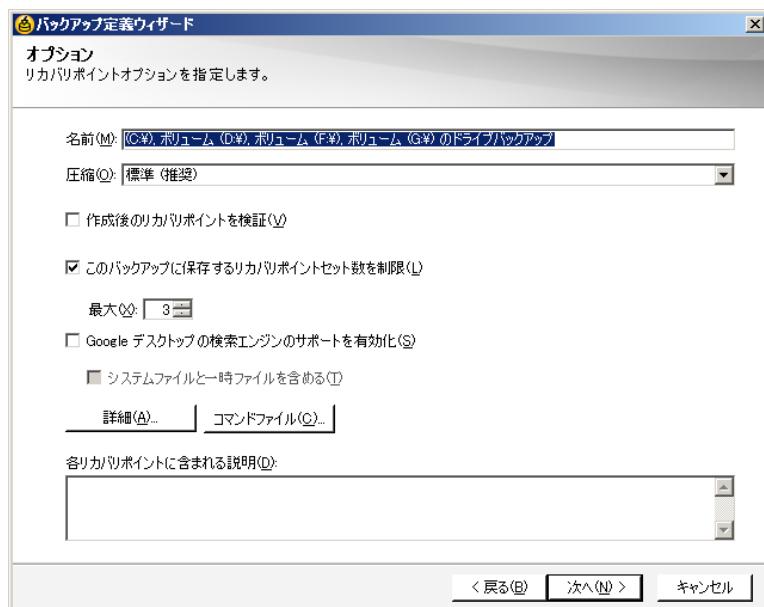


8. 項番 6.の画面に戻りますので、[次へ] ボタンをクリックします。

9. 保存先への接続に必要なユーザー名として「administrator」、パスワードとして「passstorage」と入力します。入力終了後は、[OK] ボタンをクリックします。



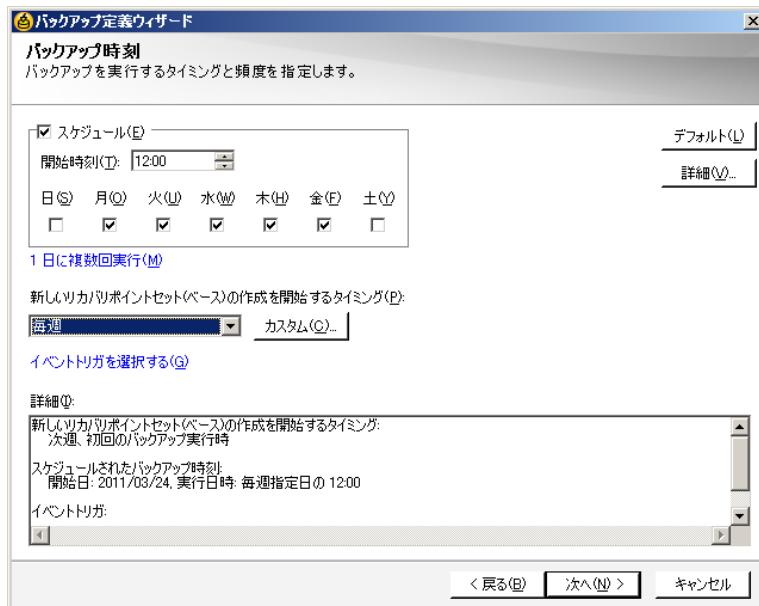
10. [次へ] ボタンをクリックします。



+++ プラスワン +++

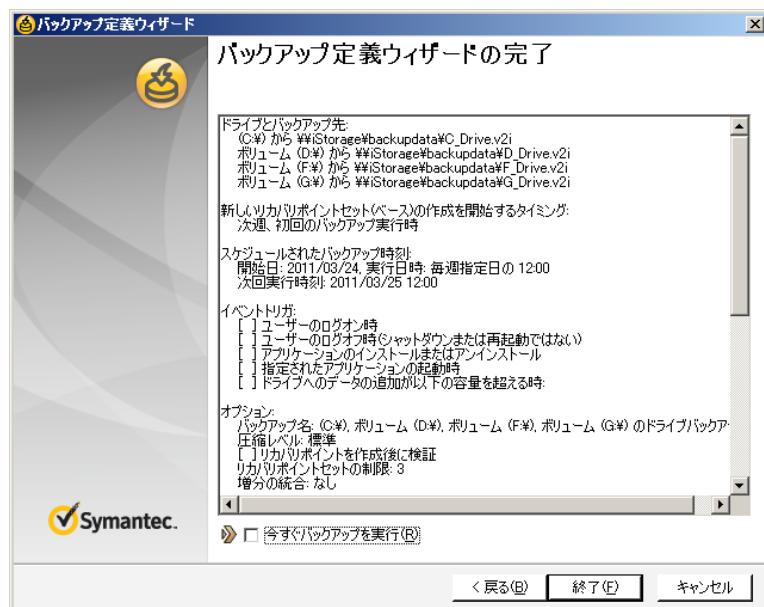
- 名前のテキストボックスでバックアップ名を変更して分かりやすく管理することができます。また、そのほかにもバックアップ作成のオプションを設定できます。オプションについての詳細は、ユーザーズガイド 第6章 の「リカバリポイントのオプション」と「ドライブベースのバックアップの高度なオプション」を参照してください。
- バックアップの前後に実行するコマンドファイルを設定して、サービスの開始や停止を連携する事ができます。詳細は、ユーザーズガイド 第6章 の「バックアップ中のコマンドファイルの実行について」を参照してください。

11. [スケジュール] にチェックを入れ、スケジュールを設定します。月、火、水、木、金のチェックボックスにチェックを入れ、[開始時刻] に「12:00」を入力します。[新しいリカバリポイントセット(ベース)の作成を開始するタイミング] で「毎週」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

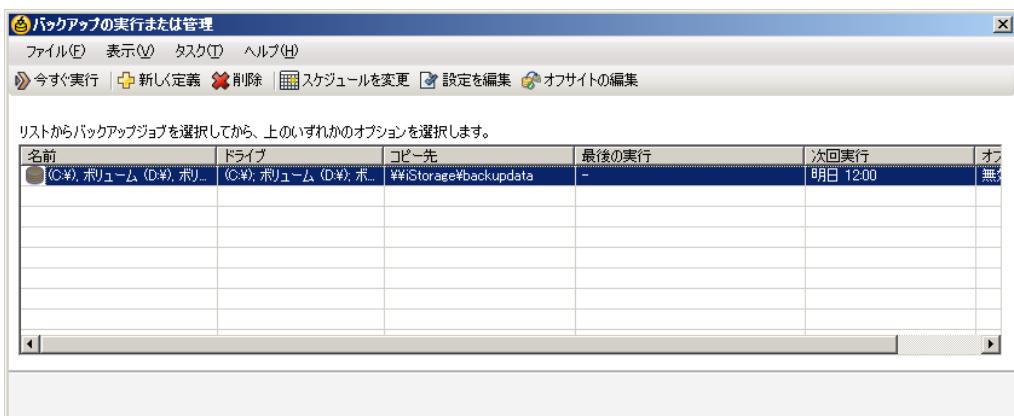


+++ プラスワン +++
イベントトリガの設定を行うと、ログオフなどのイベントを契機にバックアップを開始することができます。イベントトリガについての詳細は、ユーザーズガイド 第 8 章 の「イベント起動バックアップの有効化」を参照してください。

12. 以下の画面が表示されますので、設定した内容を確認し【終了】ボタンをクリックします。



13. [ファイル] → [終了] をクリックして [バックアップの実行または管理] 画面を終了します。



以上で、バックアップの設定は完了となります。

6.2 バックアップに関するアドバイス

バックアップを実行する場合、次のアドバイスを参考にしてください。

- コンピュータのハードディスクに問題が発生した場合でも、リカバリポイントを iStorage NS のようなストレージサーバーのネットワーク共有に保存しておくと、システムを復元することができます。
- コンピュータで作業中にバックアップが開始された場合、コンピュータの処理速度が低下することがあります。処理速度が低下した場合、バックアップの速度を落とすことでコンピュータのパフォーマンスを向上させることができます。詳細は、ユーザーズガイド 第 8 章の「バックアップ速度の調整」を参照してください。
- スケジュールされたバックアップを開始するためには、コンピュータの電源をオンにし、システムを起動しておく必要があります。
- 定義したバックアップの設定情報は、後で編集することができます。詳細は、ユーザーズガイド 第 8 章の「バックアップ設定の編集」を参照してください。
- バックアップ中は、ディスクのデフラグプログラムを実行しないでください。リカバリポイントの作成に要する時間が大幅に増加し、システムリソースの問題が発生することがあります。
- 複数のファイルを同時に更新するアプリケーションをご利用の場合、ファイルに同期が必要となります。この場合は、ファイルが含まれているすべてのドライブを同じバックアップジョブに含める必要があります。Symantec System Recovery では、複数のドライブをバックアップ定義ウィザードで選択して、同時にバックアップすることができます。
- バックアップ中に、コンピュータの電源管理機能によって休止状態やシャットダウンが実行されると、バックアップに問題が発生する可能性がありますので、バックアップ中には、電源管理機能が動作しないようにしてください。
- バックアップの動作予定期にコンピュータの電源が入っていなかった場合、次回ログオン時に未処理のバックアップの実行を求めるメッセージが表示されます。すぐにバックアップを行っても問題ない場合は、[はい] をクリックしてバックアップを実行します。なお、設定されている以降のスケジュールは予定通りに実行されます。

7 リストア

ドライブ単位のバックアップを行っている場合は、リカバリポイントを使用して、システムおよびデータドライブ、またはファイル・フォルダ単位のリストアができます。

ここでは、本書第 4.1 章「[バックアップシナリオ](#)」に沿ったリストアを行います。

7.1 システム全損時のコンピュータの復元

Symantec System Recovery によるリストアを行う前に、以下を準備してください。

- 検証済みリカバリディスク

システムドライブを復元する場合は、リカバリディスクを利用します。OS 上で起動した Symantec System Recovery の画面上にも [コンピュータの復元] の項目がありますが、システムドライブの復元には使用しません。

◆ コンピュータの復元方法

1. リカバリディスクを光ディスクドライブにセットし、CD よりシステムを起動します。
2. [エンドユーザー使用許諾契約] 画面が表示されますので、使用許諾契約の条項を一読し、同意する場合は [同意する] ボタンをクリックします。
3. ネットワークサービス起動確認画面が表示されますので、[はい] ボタンをクリックします。一定時間何も選択しなければ [はい] ボタンを選択したとみなし、自動的に次へ進みます。以降、DHCP 環境でない場合は IP アドレスの設定が必要になりますので、項番 4.に進みます。DHCP 環境の場合は設定する必要がありませんので、項番 9.に進みます。

カスタムリカバリディスク利用時は、項番 3.でネットワークサービス起動確認画面は表示されません。カスタムリカバリディスクの作成時に、[オプション] 画面の [ネットワークサービスを自動的に開始] をチェックせずに作成した場合は、項番 4.、項番 7.、項番 9.のいずれかの操作後に表示されます。ネットワークサービス起動確認画表示後は、[はい] ボタンをクリックしてください。

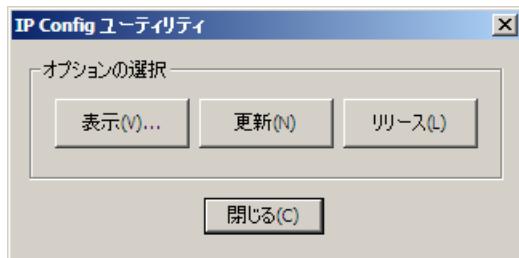
4. [ネットワーク] → [IPConfig ユーティリティを実行] をクリックします。



+++ 補足 +++

ご利用の装置のポートがひとつしかない場合は設定を行うネットワークアダプタを確認する必要はないので、項目 6.から項目 7.を省略する事ができます。

5. [表示] ボタンをクリックします。



6. ケーブルが接続されているネットワークアダプタの名前(説明)を確認します。この画面の例では、ケーブルが接続されたポートの名前は「Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network Connection」となります。

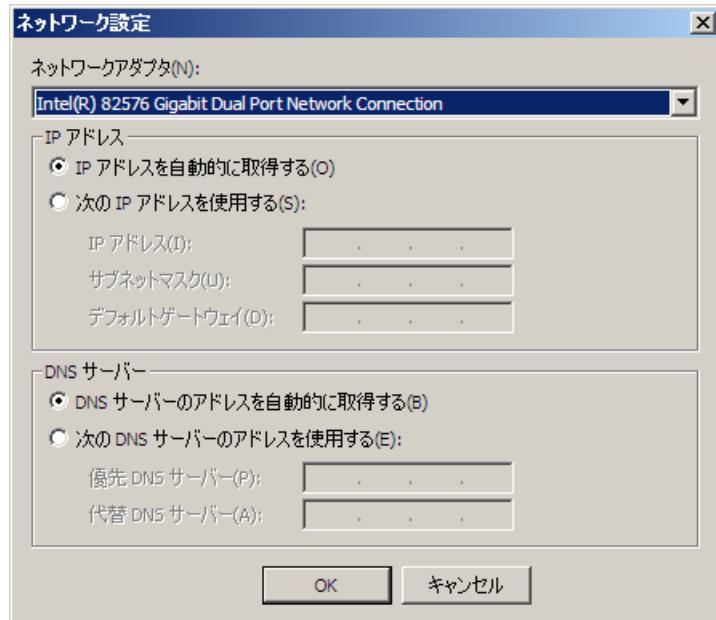
+++ 補足 +++

本画面での確認後は、何かのキーを押して画面を終了してください。その後、[IP Config ユーティリティ] 画面は [閉じる] ボタンをクリックして終了してください。

7. [ネットワーク] → [ネットワーク接続を設定] をクリックします。



8. 項番 6.で確認したネットワークアダプタを選択し、[次の IP アドレスを使用する] のラジオボタンをチェックし、適切な値を入力します。入力終了後は、[OK] ボタンをクリックします。



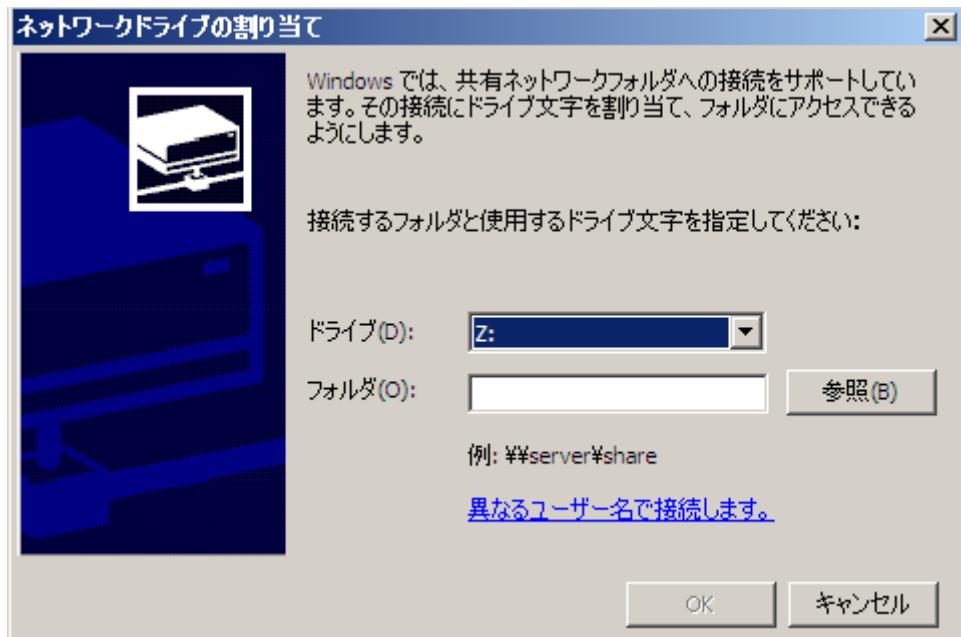
+++ 注意 +++

「静的 IP」の設定を行う場合は、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ]はいずれも空白にせず、適切なアドレスを設定してください。ゲートウェイを設けていない環境においては、[デフォルトゲートウェイ]をネットワーク上に存在しない一意となるアドレスを設定してください。DNS サーバーを設けていない環境においては、DNS サーバーの設定はデフォルトのままで構いません。

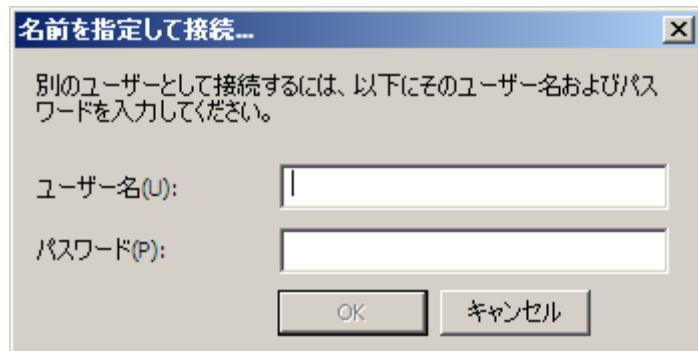
9. [ホーム] → [ネットワーク ドライブの割り当て] をクリックします。



10. 以下の画面が表示されますので、使用するドライブ名を選択し、[フォルダ] のテキストボックスにリカバリポイントが保存されている共有フォルダへのパスとして「¥¥Storage¥backupdata」と入力します。入力終了後、[異なるユーザー名で接続します] をクリックします。



11. 接続に必要なユーザー名として「administrator」を、パスワードとして「passstorage」を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



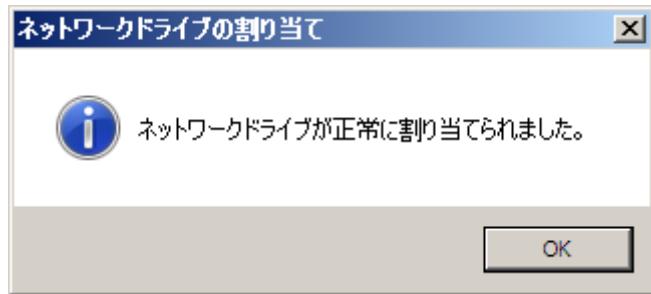
12. [OK] ボタンをクリックします。



+++ 注意 +++

共有フォルダ名を指定しても、[OK] ボタンが無効の場合は、共有フォルダ名の後ろにスペースを入力すると、[OK] ボタンが有効になります。有効になった後、入力したスペースを削除してください。

13. 接続が終了すると、以下の画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



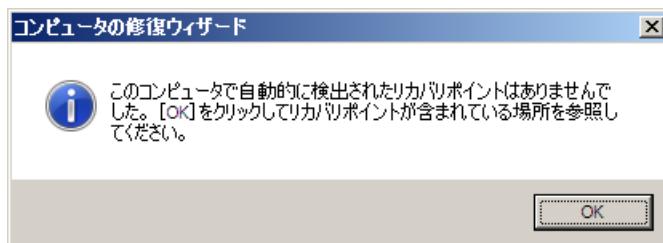
14. 修復ウィザードを起動させるために、[ホーム] → [コンピュータを修復] をクリックします。



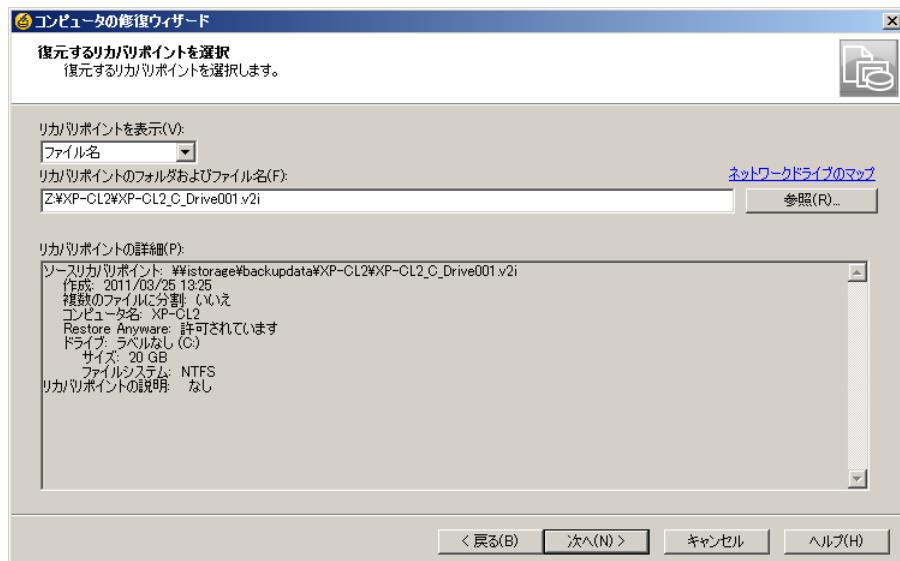
15. 以下の画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



16. 以下の画面が表示された場合は、[OK] ボタンをクリックします。



17. 以下の画面が表示されますので、[リカバリポイントを表示] 項目のプルダウンメニューで【ファイル名】を選択します。[参照] ボタンをクリックし、先ほど作成したネットワークドライブに保存されているシステムドライブのリカバリポイント (XP-CL2_C_Drive001.v2i) を指定した後、[次へ] ボタンをクリックします。



+++ 注意 +++

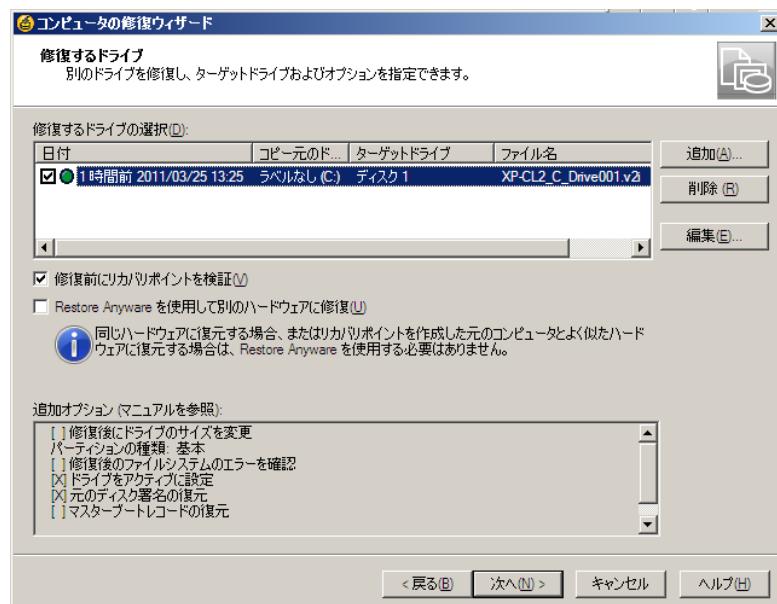
リカバリポイントが分割されている場合は、XP-CL2_C_Drive001_s01.v2i のようなファイル名のファイルが複数作成されますが、リストア時には XP-CL2_C_Drive001.v2i の名前のファイルを指定します。

+++ 注意 +++

Windows 7 のシステムをリストアする場合は、まず、最初に [システム で予約済み] のみリストアを行います。リストア終了後、再起動を行わずに続けてシステムドライブおよびデータドライブのリストアを実行してください。

- ・上記以前の OS のシステムをリストアする場合は、まず、最初にシステムドライブ (C ドライブ) のみリストアを行います。リストア終了後、再起動を行わずに続けてデータドライブのリストアを実行してください。

18. 修復するドライブの情報が表示されます。[編集] ボタンをクリックします。



+++ プラスワン +++

必要に応じて「修復前にリカバリポイントを検証」、「Repair Anyware を使用して別のハードウェアに修復」の設定を行うことができます。Repair Anyware の詳細は、ユーザーズガイド 第14章の「ハードウェアが異なるコンピュータへの修復について」を参照してください。

ディスクの交換などにより、データドライブも同時に復元する場合はこの画面からリストアを行うドライブを追加することができます。詳細は、ユーザーズガイド 第14章の「コンピュータの修復」を参照してください。

19. リストアするドライブのオプション設定を行います。

●Windows 7 の場合

[システムで予約済み] のみ、以下にチェックを入れてください。

- ・[ドライブをアクティブ (OS ブート用) に設定]
- ・[マスターブートレコードの復元]

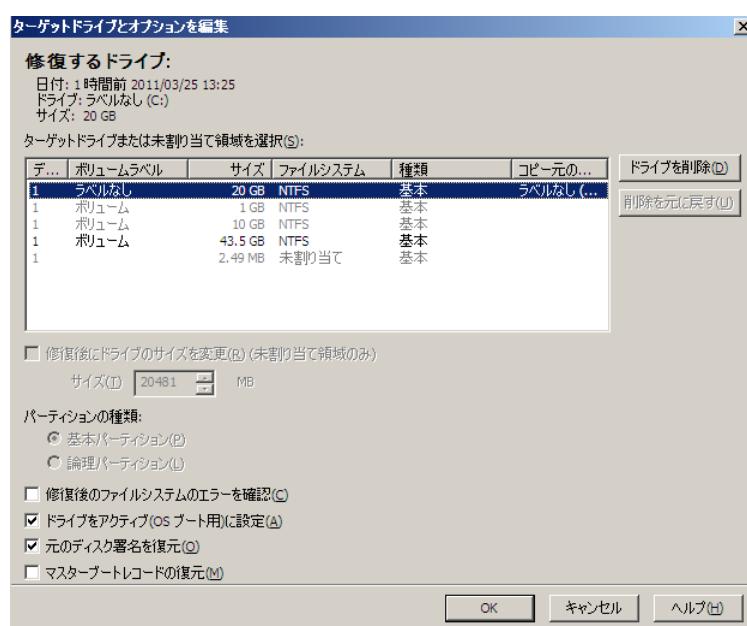
※ 他のドライブでチェックを入れると正常にリストアできません。

●上記以前の OS の場合

システムドライブ(C ドライブ) のみ、以下にチェックを入れてください。

- ・[ドライブをアクティブ (OS ブート用) に設定]
- ・[マスターブートレコードの復元]

※ 他のドライブでチェックを入れると正常にリストアできません。



+++ 注意 +++

ディスク交換などで、未使用のディスクにリストアを行う場合は必ず [マスターブートレコードの復元] にチェックを入れてください。

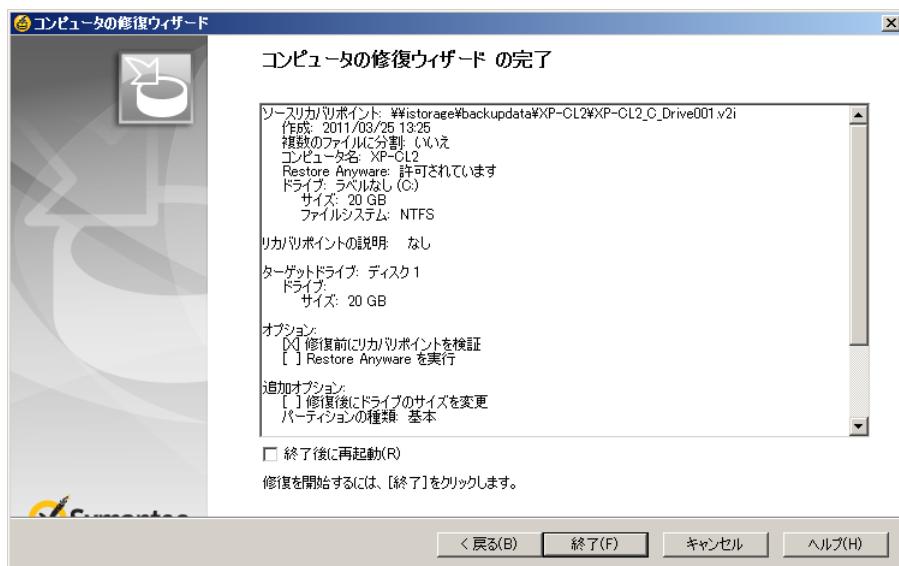
+++ プラスワン +++

既定以外のリストア処理については、オプションを設定する事で実現できます。詳細は、ユーザーズガイドの第14章の「ターゲットドライブとオプションを編集」を参照してください。

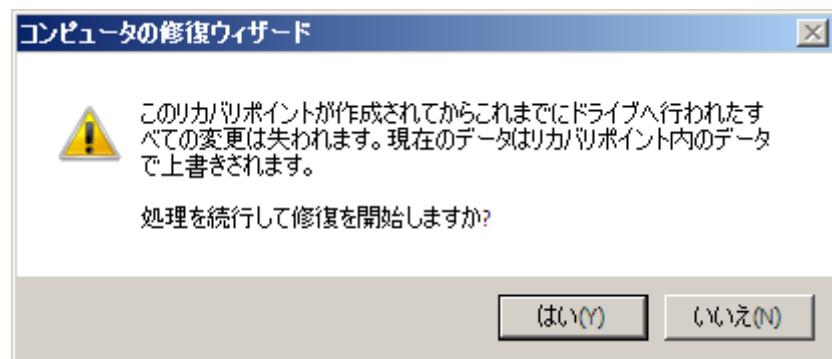
- ・ターゲットドライブの選択
- ・未割り当て領域の編集
- ・パーティションの種類の選択
- ・修復後のファイルシステムのエラーを確認
- ・ドライブをアクティブ(ブートOS用)に設定
- ・元のディスク署名を復元
- ・マスターブートレコードの復元

20. 項番18.の画面に戻りますので、[次へ]ボタンをクリックします。

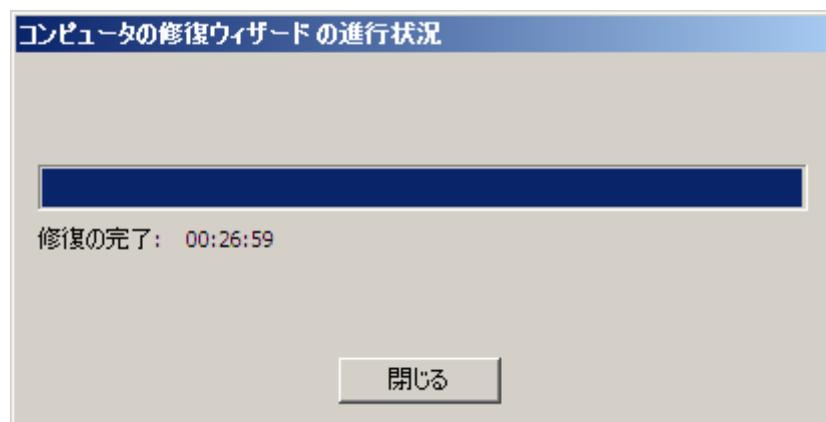
21. 以下の画面が表示されますので内容を確認し、[終了]ボタンをクリックします。



22. 以下の警告画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックします。これにより、復元が開始されます。



23. 復元が完了した後は、[閉じる] ボタンをクリックします。



24. リストアするドライブが複数ある場合は、手順 14 に戻り、全てのドライブをリストアします。

25. メニュー画面にて、[終了] をクリックします。



26. 以下の画面が表示されますので、[はい] ボタンをクリックしシステムを再起動します。[はい] ボタンのクリック後は、CDを取り出します。



以上で、復元は完了となります。

7.2 ファイルの復旧

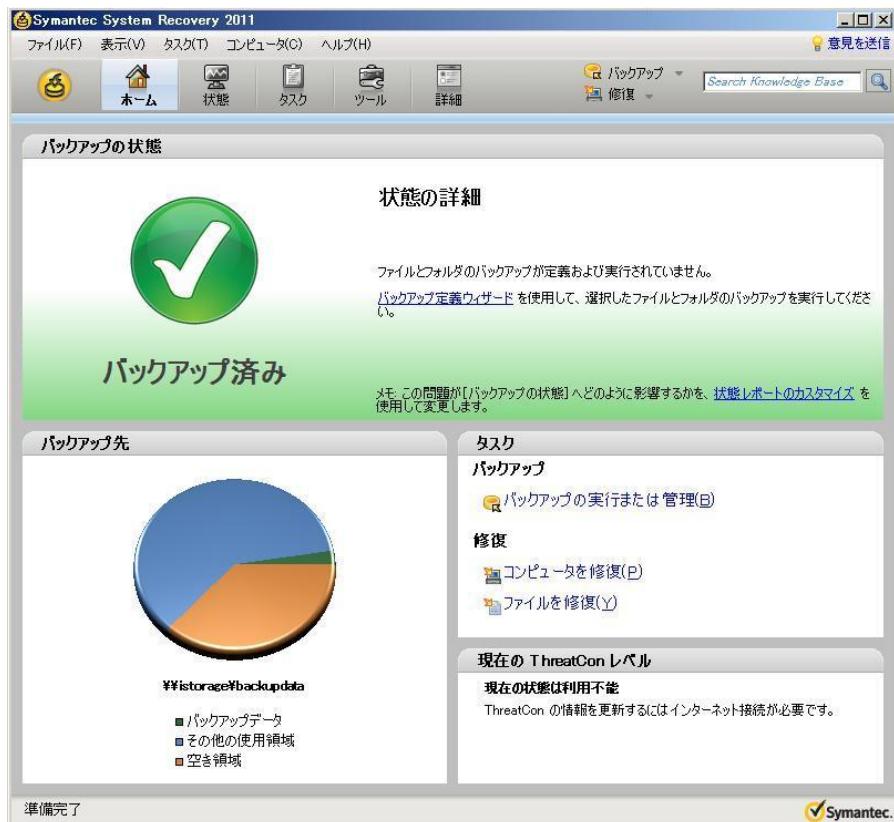
Symantec System Recovery では、ドライブすべてを復元するだけでなく、指定したファイルやフォルダのみを復元することもできます。

ここでは、本書第 4.1 章「[バックアップシナリオ](#)」に沿ったリストアを行います。

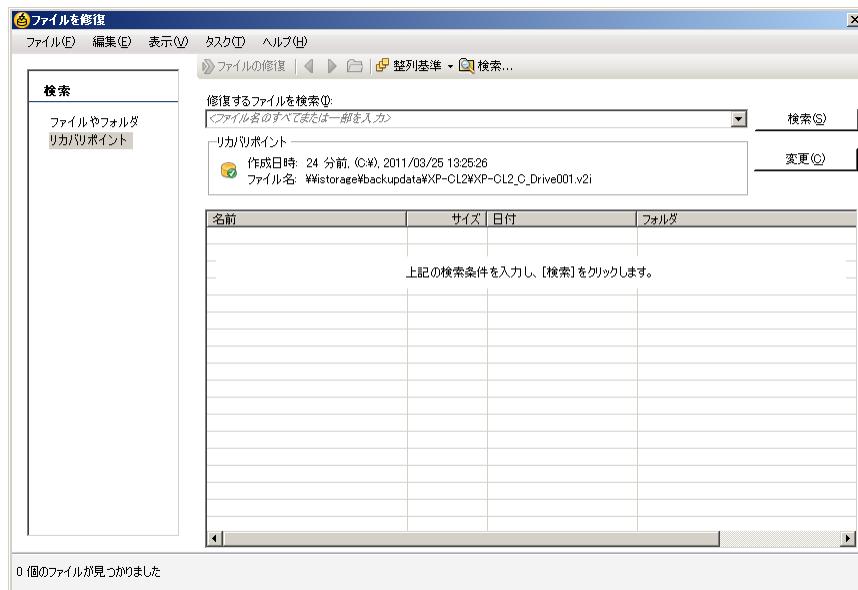
復元の手段として、Symantec System Recovery の GUI からの方法と、リカバリポイントブラウザを利用した方法を紹介します。エクスプローラのように、ツリービューでファイルを選択して復元する場合は、リカバリポイントブラウザの項を参照してください。

◆ ファイルの復旧方法（GUI）

1. [スタート] → [すべてのプログラム] → [Symantec System Recovery] → [Symantec System Recovery 2011] を起動し、[ホーム] ページの [ファイルを修復] をクリックします



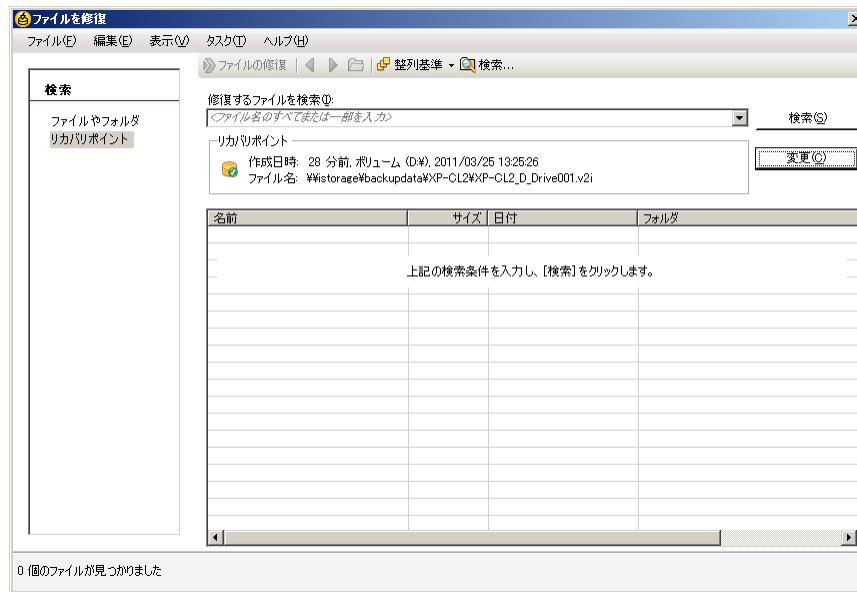
2. 左ペインの【リカバリポイント】をクリックすると、右ペインの【リカバリポイント】に最新のリカバリポイントとしてシステムドライブのリカバリポイントが表示されますので、データドライブのリカバリポイントからリストアを行うために、【変更】ボタンをクリックします。



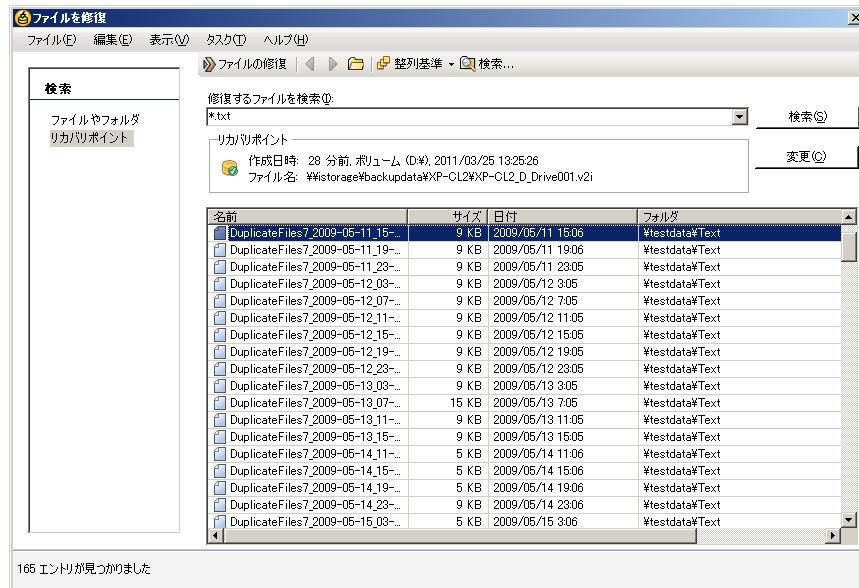
3. 以下の画面が表示されますので、[表示] 項目のプルダウンメニューで [ファイル名] を選択します。[参照] ボタンをクリックして、「¥¥Istorage¥backupdata¥XP-CL2」に保存されているデータドライブのリカバリポイント（XP-CL2_D_Drive001.v2i）を指定、リカバリポイント保存先への接続に必要なユーザー名として「administrator」、パスワードとして「passstorage」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。



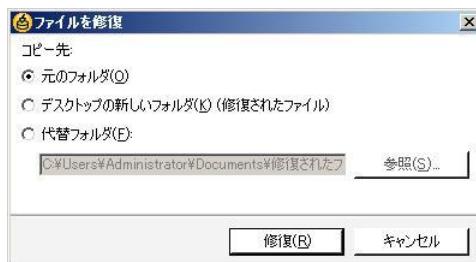
4. 右ペインの [リカバリポイント] にデータドライブのリカバリポイントの情報が表示されますので、修復したいファイル名を [修復するファイルを検索] に入力して、[検索] ボタンをクリックします。



5. 復元したいファイル、またはフォルダを選択し、[ファイルの修復] をクリックします。



6. 復元先を選択し、[修復] ボタンをクリックします。



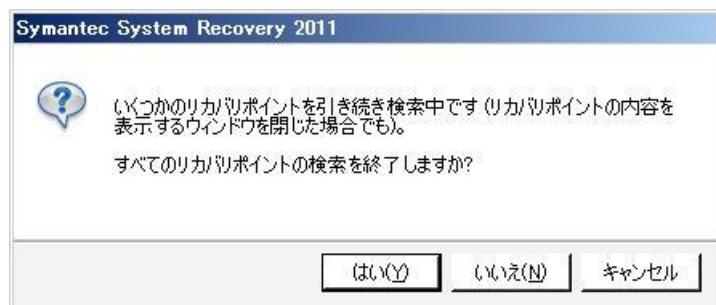
7. 完了後、以下の画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



8. [ファイル] → [終了] をクリックし、[ファイルを修復] 画面を終了します。

名前	サイズ	日付	フォルダ
DuplicateFiles7_2009-05-11_15...	9 KB	2009/05/11 15:06	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-11_19...	9 KB	2009/05/11 19:06	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-11_23...	9 KB	2009/05/11 23:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-12_03...	9 KB	2009/05/12 3:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-12_07...	9 KB	2009/05/12 7:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-12_11...	9 KB	2009/05/12 11:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-12_15...	9 KB	2009/05/12 15:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-12_19...	9 KB	2009/05/12 19:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-12_23...	9 KB	2009/05/12 23:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-13_03...	9 KB	2009/05/13 3:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-13_07...	15 KB	2009/05/13 7:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-13_11...	9 KB	2009/05/13 11:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-13_15...	9 KB	2009/05/13 15:05	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-14_11...	5 KB	2009/05/14 11:06	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-14_15...	5 KB	2009/05/14 15:06	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-14_19...	5 KB	2009/05/14 19:06	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-14_23...	9 KB	2009/05/14 23:06	\testdata\Text
DuplicateFiles7_2009-05-15_03...	5 KB	2009/05/15 3:06	\testdata\Text

9. Symantec System Recovery 2011 の起動画面の [ファイル] → [終了] をクリックし、画面を終了する時に以下のメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。



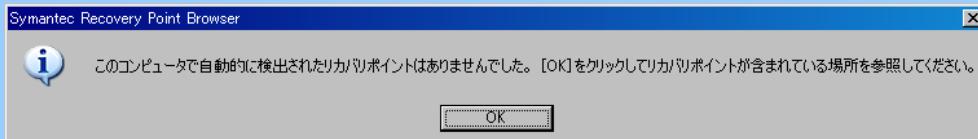
以上で、復元は完了となります。

◆ ファイルの復旧方法（リカバリポイントブラウザ）

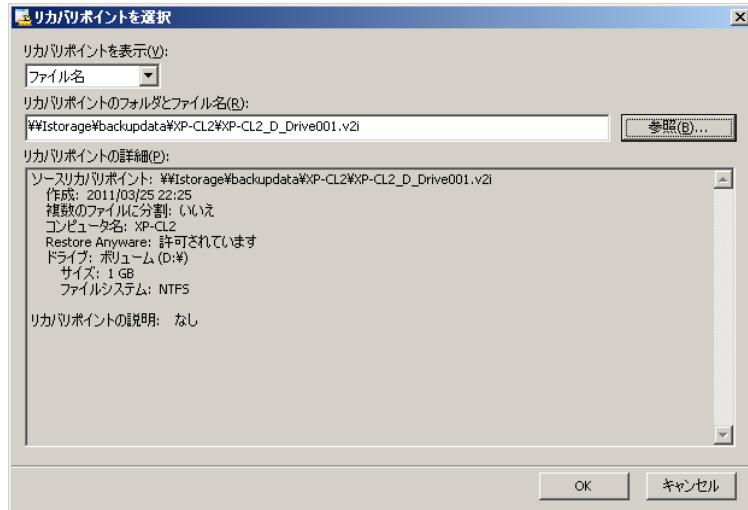
- [スタート] → [すべてのプログラム] → [Symantec System Recovery] → [Recovery Point Browser] を起動します。

+++ 補足 +++

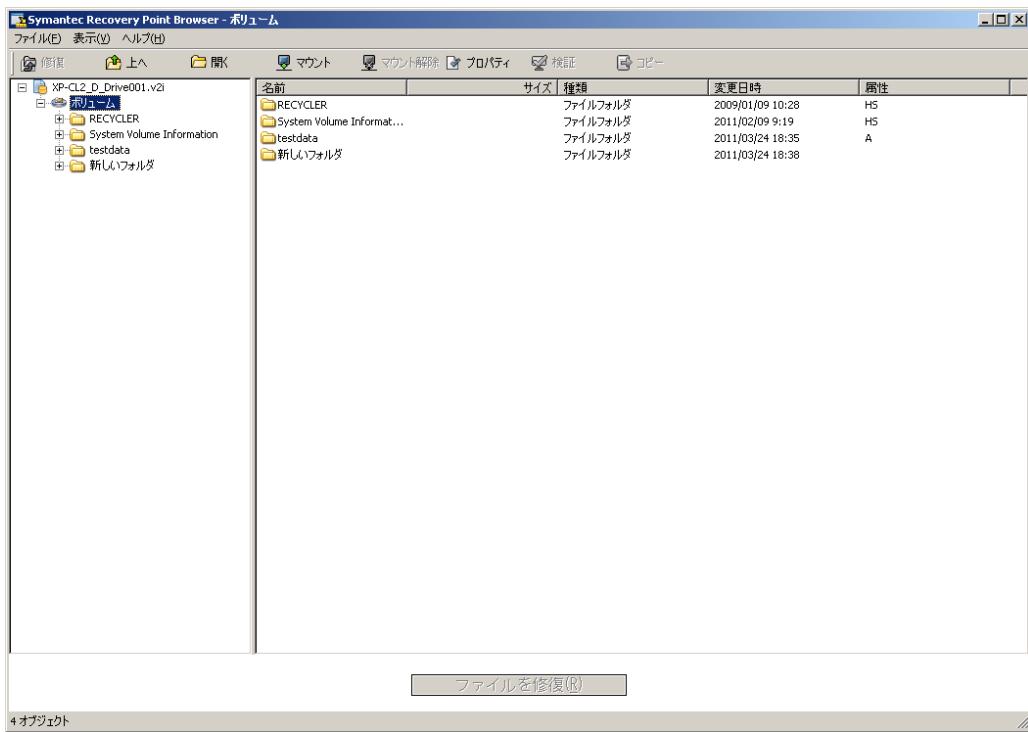
以下のメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックして、項目 2.へ進みます。



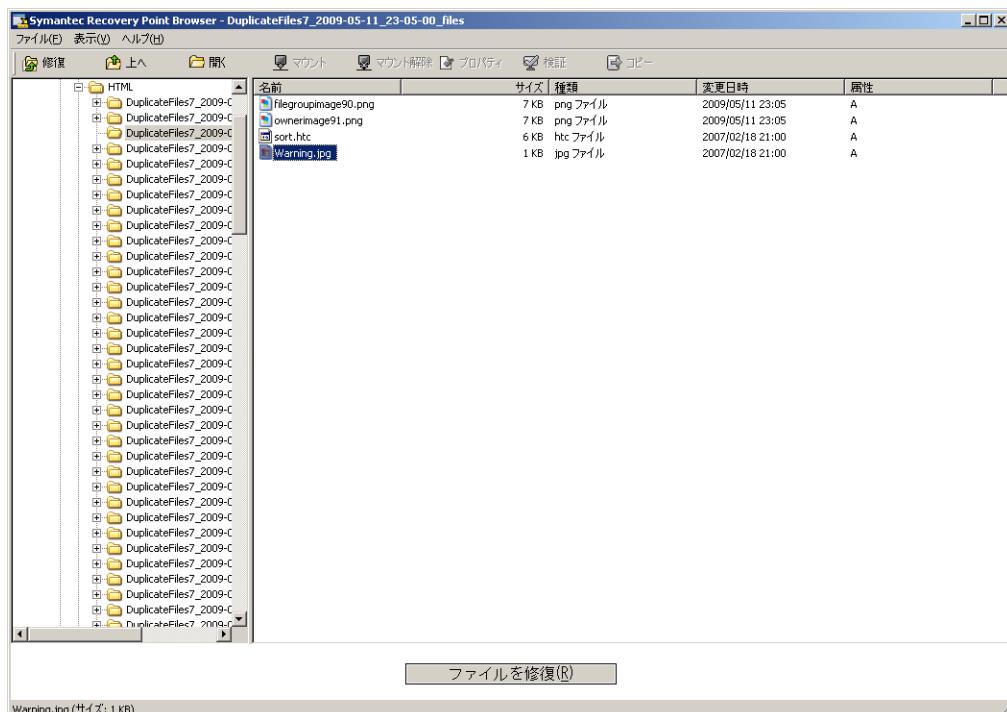
- [リカバリポイントを選択] 画面が表示されますので、[リカバリポイントを表示] 項目のプルダウンメニューで [ファイル名] を選択します。[参照] ボタンをクリックして、「¥¥iStorage¥backupdata¥XP-CL2」に保存されているデータドライブのリカバリポイント (XP-CL2_D_Drive001.v2i) を指定し、[OK] ボタンをクリックします。



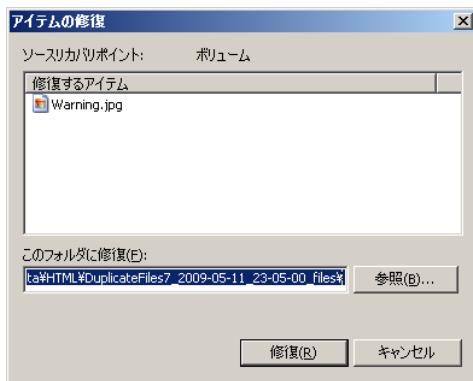
3. 左ペインにツリー構造でシステムドライブのファイルが表示されますので、リストア対象のファイルが格納されたフォルダに移動します。



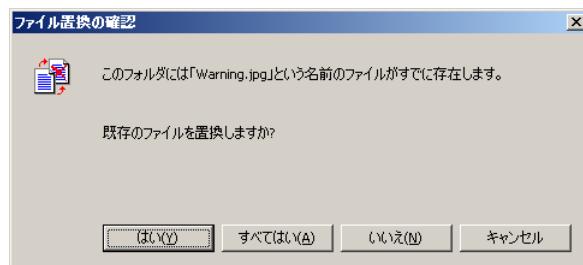
4. リストア対象のファイルを選択し、【ファイルを修復】ボタンをクリックします。



5. 修復するファイルの格納場所を選択し、[修復] ボタンをクリックします。



6. 以下の画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。



7. [OK] ボタンをクリックします。



以上でリカバリポイントブラウザからの復元は完了となります。

8 注意制限事項

- 英語版のリカバリディスクを使用すると、キーボード配列が英語キーボードの配列になりますのでご注意ください。
- コールドバックアップを行う場合にも、検証済みのリカバリディスクを使用してください。
- Windows 7 もしくは Windows Vista を使用している場合、複数のメディアに分割作成したリカバリポイントからのリストアが正しく実行できないことがあります。この場合は、メディア内のリカバリポイントを一度ハードディスク上などにすべてコピーし、コピーしたリカバリポイントを指定してリストアを行ってください。
- USB メモリにカスタムリカバリディスクを作成する場合は、あらかじめ FAT32 でフォーマットした USB メモリを使用してください。FAT32 でフォーマットされていない USB メモリはカスタムリカバリディスクの書き込み対象として認識されません。
- USB メモリにカスタムリカバリディスクを作成する場合は、USB メモリ上に最低でも 400MB 以上（場合によってはそれ以上）の空き容量が必要です。

9 FAQ

◆ 増分バックアップが実行中に中断された場合、どのようになるのですか？

リカバリポイントが正常に作成されず、エラーファイルとなる場合があります。エラーファイルは、統合されず不正ファイルとして残りますが、次のスケジュール時には適切な完全リカバリポイント、あるいは増分リカバリポイントが作成されます。

◆ 複数の世代のバックアップを取る場合、バックアップ中に保存先のハードディスクの空き容量が足りなくなった場合、どう処理されますか？

指定したリカバリポイントセット数に達する前にハードディスクの空き容量が不足すると、定期的リカバリポイント処理が正常に実行できなくなり、現在のリカバリポイントが作成されません。バックアップ開始前に、ハードディスクの空き容量を確認しておく必要があります。

◆ 複数の世代のバックアップを取る場合、指定した世代数に達した後のバックアップはどのように行われますか？

指定した世代数に達した場合は、その次のバックアップではまず最新のリカバリポイントが作成されて保存された後に、以前に作成した最も古いリカバリポイントもしくはリカバリポイントセットが削除されます。

指定した数よりも1つ多いリカバリポイントを保存できるだけのハードディスクの空き容量が必要です。

◆ リカバリポイントの作成中に、ファイルが更新された場合、そのファイルはバックアップされますか？

Symantec System Recovery 2011 のバックアップ中にファイルが更新された場合は、更新前の状態で正しくバックアップが行われます。

10 障害時の問い合わせ方法

障害についてお問い合わせ頂く際は、障害の内容に関係なく、以下の情報を添えて、PP・サポートサービスへ問い合わせてください。

- ・ 障害の発生日/時刻
- ・ 障害の内容
- ・ 障害による影響度

障害の発生により、どのような影響が発生しているかをご連絡ください。(システムの運用に支障があるかなど)

- ・ 障害が発生したきっかけ

パッチの適用やシステムの設定変更など、障害の発生前に実施した何らかの操作があればご連絡ください。

- ・ 障害が発生した際の手順/操作

詳しい手順をお知らせください。また、障害発生の時間帯に動作していた他の処理があった場合はその処理についてもご連絡ください。

- ・ 再現性/発生頻度

今回の障害が一度だけ発生したものか、何度か再現しているものかをご連絡ください。

- ・ 環境

障害が発生した環境は、テスト環境なのかすでに運用中の環境かをご連絡ください。

- ・ 製品のバージョン

Symantec System Recovery の GUI を起動し、[ヘルプ] - [バージョン情報] をクリックして確認してください。

- ・ 他にインストールされているソフトウェア

該当マシン上で他にソフトウェアを導入している場合は、ご連絡ください。

- ・ HW 情報

バックアップを行っている該当マシン

バックアップデータを保存しているサーバー（ネットワーク上の共有フォルダにバックアップを行っている場合）

について、機種名/OS（適用 SP）をご連絡ください。

- ・ 周辺機器情報

周辺機器を接続している場合は、ご連絡ください。

- ・ その他（特殊事情）

上記以外に、気になる事がございましたらご連絡ください。

- ・ SeaST ログ

OS 上の Symantec System Recovery で発生した障害の場合は、本書第 10.1 章「[SeaST ログ採取方法](#)」の手順に従って SeaST ログを採取してください。リカバリディスクにより起動した環境で発生した障害の場合は、本書第 10.2 章「[リカバリディスク起動時の SeaST ログ採取方法](#)」の手順に従って SeaST ログを採取してください。

なお、SeaST ログはシステム内に存在する現時点までのログを収集しますので、収集にあたって事前の準備は不要です。

10.1 SeaST ログ採取方法

障害が発生したコンピュータにて、以下の手順で SeaST ログを採取してください。

◆ SeaST ログの採取方法

※本ログの採取では、システムの再起動は発生いたしません。

1. エクスプローラを起動します。
2. メニューバーの [ツール] → [フォルダオプション] をクリックし、[表示] タブの [すべてのファイルとフォルダを表示する] がチェックされていなければチェックして [OK] ボタンをクリックします。

※OS によってはフォルダオプションの変更の方法が異なる場合もございます。この場合は、ご利用の OS にあった方法で変更してください。

3. 以下のフォルダが存在する場合は削除します。

Windows Vista 、 Windows 7 、 Windows Server 2008、 Windows Server 2008 R2 の場合

C:\Users\All Users\Symantec\Symantec System Recovery\Support

上記以外の OS の場合

C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Symantec\Symantec System Recovery\Support

4. 以下のフォルダを開きます。なお、手順内のフォルダのパスは、 Symantec System Recovery をデフォルトでインストールした場合のものとなります。インストールフォルダを変更されている場合は、その配下をご確認下さい。

C:\Program Files\Symantec\Symantec System Recovery

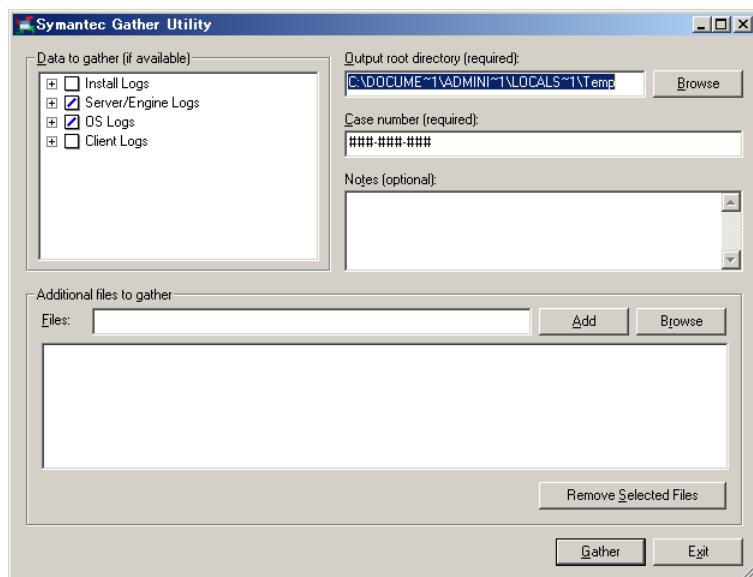
※ご利用の OS が x64 版の場合は、フォルダのパス中の 「Program Files」 を
「Program Files(x86)」 と読み替えてください。

5. フォルダ内に 「Support」 フォルダが存在していた場合は 「Support」 フォルダを削除します。

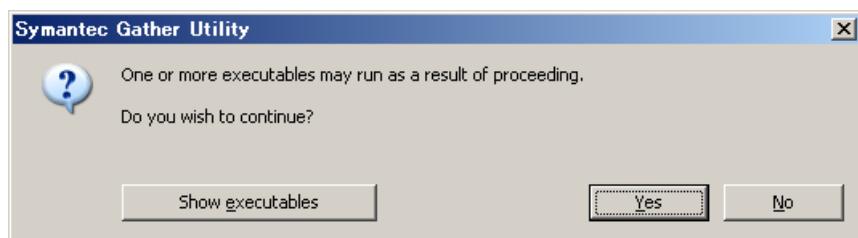
6. 「¥Utility」 フォルダを開きます。
7. フォルダ内の「SeaST.exe」をダブルクリックで実行します。
8. 【サポートツール】画面が表示されますので、【テクニカルサポート情報の収集】をクリックします。



9. [Symantec Gather Utility] 画面が起動しますので、[Output root directory] にログの出力先となるパスを、[Case number] に "000-000-000" を入力し、[Gather] ボタンをクリックします。

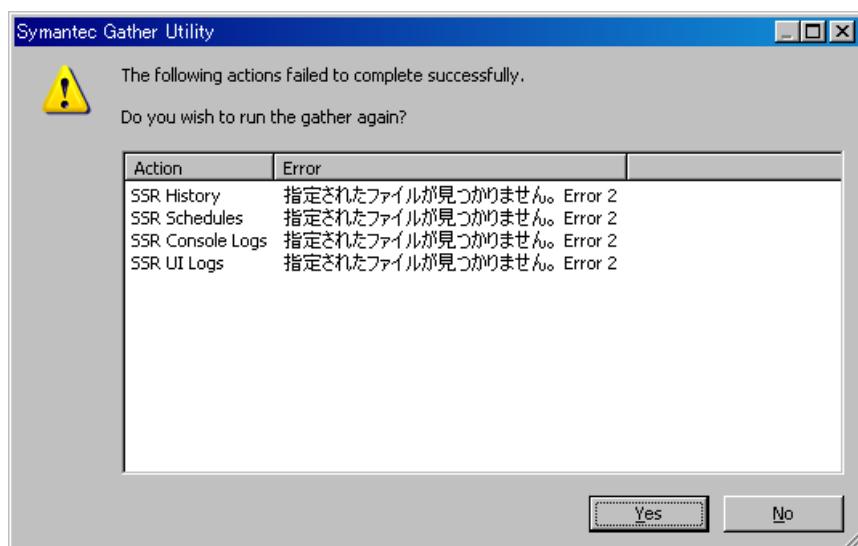


10. 以下の画面が表示された場合は、[Yes] ボタンをクリックします。

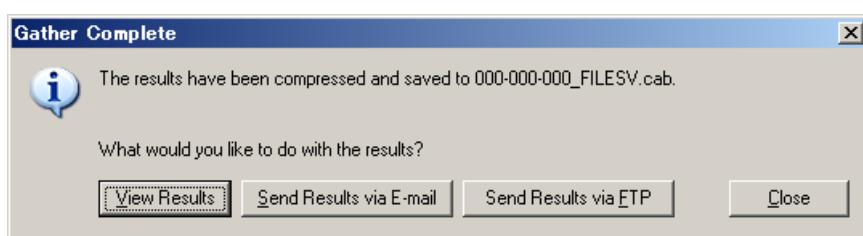


11. 情報収集が完了するまで数分間待ちます。

12. 以下のような画面が表示された場合は、[No] ボタンをクリックします。



13. 完了のメッセージが表示されますので、[Close] ボタンをクリックします。



14. 項番 9.で指定した場所に「¥000-000-000_<コンピュータ名>」フォルダが作成されますので、そのフォルダ配下の「¥SSRDiagnostics」フォルダに格納されている「**system.nfo**」ファイルのサイズを確認します。このファイルのサイズが 0 バイトの場合はそのまましばらく待ちます。サイズが 0 バイトでなくなった事を確認し、「¥000-000-000_<コンピュータ名>」フォルダごとログを採取します。

15. [Symantec Gather Utility] 画面の [Exit] ボタンをクリックして終了します。

16. [サポートツール] 画面の右上の×をクリックして終了します。

以上で、SeaST ログの採取は終了となります。

10.2 リカバリディスク起動時のSeaSTログ採取方法

リカバリディスクにより起動した環境で障害が発生した場合は、以下の手順で SeaST ログを採取してください。

障害発生後にシステムの再起動を行うと、ログが消去されてしまいますので SeaST ログの採取は必ず再起動の前に行ってください。

◆ リカバリディスク起動時の SeaST ログの採取方法

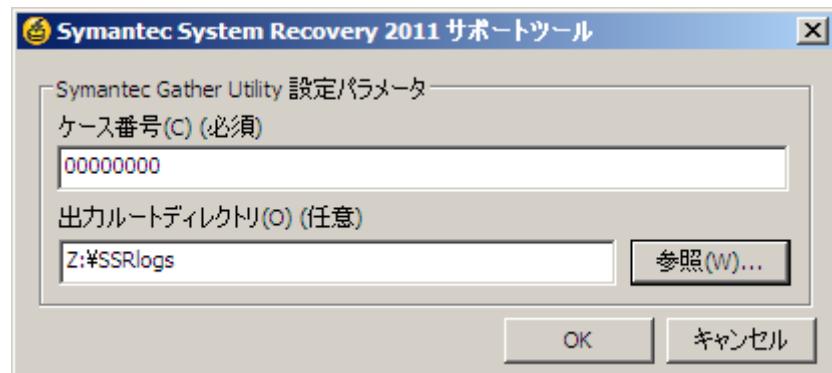
1. [Symantec System Recovery Disk] 画面にて、[ユーティリティ] → [サポートツールの実行] を選択します。



2. [サポートツール] 画面にて、[テクニカルサポート情報の収集] をクリックします。



3. [ケース番号] に "000000000" を、[出力ルートディレクトリ] にログの出力先となるパスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



+++ 補足 +++

デフォルトではログの保存先に X ドライブが表示されていますが、X ドライブのデータは再起動により消えてしまいますので、保存先に他のドライブを選択するか、もしくは採取したデータを再起動前にネットワーク共有フォルダなどに移動させてください。

4. 情報収集が完了すると、項目 3.で指定した場所に「¥000000000_<ランダム文字列>」フォルダが作成されますので、このフォルダごと採取します。
5. 【サポートツール】画面の右上の×をクリックして終了します。

以上で、SeaST ログの採取は終了となります。